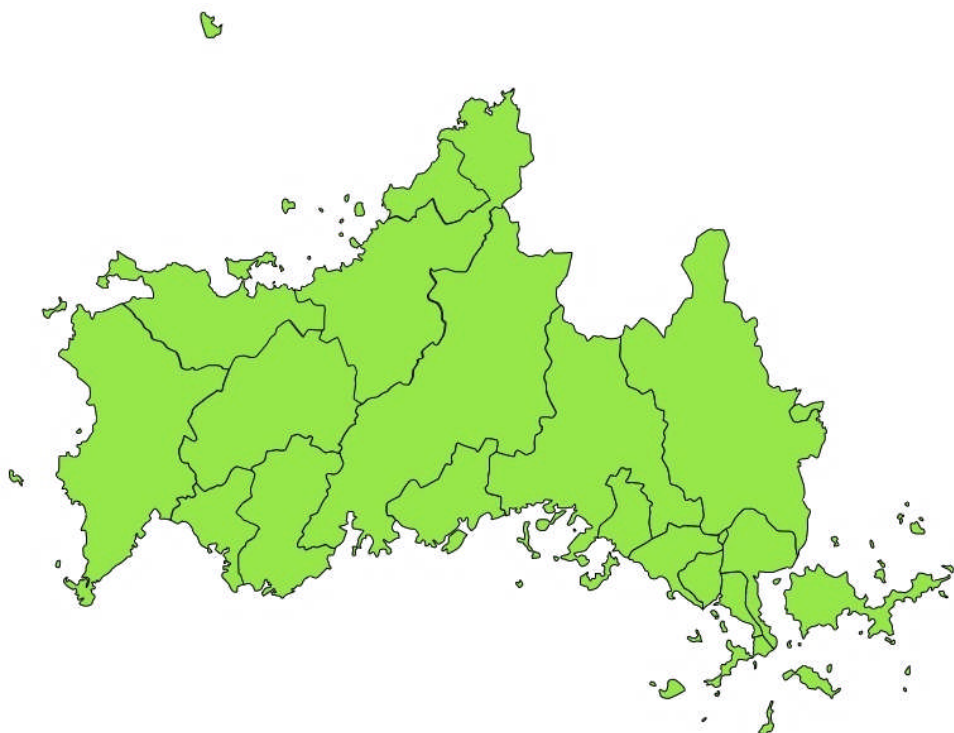


第2期 県立高校将来構想

2015 平成27年度  2024 平成36年度



平成27年3月
山口県教育委員会

目 次

第1章 第2期県立高校将来構想の策定について

- 1 策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 構想の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 高校教育をめぐる現状と課題について

- 1 県立高校を取り巻く状況の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 【社会の変化】
 - 【家庭・地域の変化】
 - 【教育をめぐる国の動き】
- 2 県立高校の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 【生徒の多様化】
 - 【生徒のニーズの多様化】
 - 【中学校卒業生数の減少】

第3章 今後の県立高校の在り方について

- 1 めざすべき県立高校像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (1) 県立高校像を考える視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 【生きる力の確実な育成に向けた教育の推進】
 - 【社会の変化への対応】
 - 【生徒の多様化への対応】
 - 【生徒減少への対応】
 - 【現行構想の成果と課題】
 - (2) 基本的コンセプト（学校づくりの方向性）・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 【生徒が夢を育み、志をもって学ぶ学校】
 - 【生徒や教職員が生き生きと活動し、活力のある学校】
 - 【地域に愛され、地域とともにある学校】
- 2 教育活動の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (1) 確かな学力を育成する教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (2) 豊かな心を育む教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - (3) 健やかな体を育む教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - (4) 進路指導の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - (5) 生徒指導、相談・支援体制の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - (6) グローバル人材の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - (7) ICT活用の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

3	教育環境の充実	14
(1)	教職員の資質能力の向上	14
(2)	学校運営の活性化	14
(3)	地域と連携した学校づくり	14
(4)	安心・安全な学校づくり	15
(5)	その他	16

第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について

1	特色ある学校づくり	17
(1)	全日制課程の方向性	17
	【普通科系の学科】	
	【専門学科】	
	[農業に関する学科] [工業に関する学科] [商業に関する学科]	
	[水産に関する学科] [家庭に関する学科] [看護に関する学科]	
	[福祉に関する学科]	
	【総合学科】	
(2)	定時制・通信制課程の方向性	22
(3)	中高一貫教育の推進	22
2	学校・学科の再編整備	23
(1)	再編整備の必要性	23
(2)	望ましい学校規模	23
(3)	再編整備の進め方	24
(4)	配慮事項	25

第5章 将来構想の推進について

1	地域社会との協働	26
2	実施計画の策定	26

第1章 第2期県立高校将来構想の策定について

1 策定の趣旨

グローバル化や高度情報化等の世界全体の急速な変化、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少等が進み、将来を見通すことが難しい状況の中、国では、教育再生実行会議^{*}において、生徒の多様性を踏まえた学校の特色化が提言されるとともに、中央教育審議会^{*}においては、「生きる力」^{*}の確実な育成に向けて、教育内容、指導方法、評価方法、教育環境を抜本的に充実することが審議されるなど、教育改革についての様々な検討が進んでいるところです。

こうした中、県教育委員会では、平成17年3月に策定した「県立高校将来構想」（平成17年度から平成26年度までの10年間を期間とする）に基づき、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備等に取り組み、本県高校教育の一層の充実に努めています。今後も、引き続き、生徒のニーズの多様化や、中学校卒業生数の継続的な減少による学校の小規模化など、県立高校を取り巻く環境は大きく変化していくことが見込まれており、特色ある教育活動を積極的に展開し、自らの将来や社会を力強く生き抜く生徒を育てていくことが重要となります。

県教育委員会では、こうした国の教育改革の動向や本県高校教育の抱える課題を踏まえ、中長期的視点に立って本県高校教育の質の確保・向上を図るため、次のことがらを主な内容として、今後の本県高校改革の基本的な考え方や施策展開の方向性を示す「第2期県立高校将来構想」を策定し、更なる高校改革の推進に取り組むこととしました。

- めざすべき県立高校像
- 教育活動の充実
- 教育環境の充実
- 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備

※教育再生実行会議：21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を強力に進めていくために設置された会議で、メンバーは、内閣総理大臣、文部科学大臣並びに有識者

※中央教育審議会：文部科学大臣の諮問に応じて、教育の振興及び生涯学習の推進を中核とした豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に関する重要事項等に関して調査審議し、文部科学大臣に意見を述べることを目的として設置された審議会

※生きる力：知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）のバランスのとれた力

2 構想の期間

再編整備の内容を含むこの「第2期県立高校将来構想」は、今後15年にわたる生徒減少を踏まえ、長期的な展望をもって策定する必要があります。

このため、15年先を見通した上で、今後10年間の高校改革の指針を示すこととし、本構想の期間は、平成27年度から平成36年度までの10年間とします。

第2章 高校教育をめぐる現状と課題について

1 県立高校を取り巻く状況の変化

【社会の変化】

今日、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となる知識基盤社会の到来や、社会・経済のグローバル化、情報通信技術の飛躍的な進歩等による高度情報化の進展、産業・就業構造の変化、人口減少や少子高齢化の進行による地域社会の環境変化など、教育を取り巻く社会の変化は、ますます大きくなることが予測されています。

こうした変化に的確に対応していくため、柔軟な思考力や創造力をはじめ、身に付けた知識や能力を他者との関わり合いの中で主体的かつ能動的に応用・実践する力等を育成することが求められています。

一方で、いかに社会が変化しようとも、これからの変化の激しい社会を担う子どもたちに、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」を育むなど、普遍的な教育理念を大切にすることも求められています。

また、地域の活性化に向けて、人口減少に歯止めをかけるため、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の育成や、地域における魅力ある多様な就業機会の創出が課題となっています。

【家庭・地域の変化】

近年、都市化・過疎化の進行や核家族化による家族形態の変容、地域における地縁的つながりの希薄化等を背景として、家庭や地域社会における教育力や規範意識、地域社会とのつながりや支えあいによるセーフティネット機能などの低下が指摘されています。

このため、これからの高校教育においては、生徒の実態、保護者や地域のニーズ等をしっかりと把握した上で、学校と家庭・地域との役割分担や望ましい連携の在り方等を検討し、三者が一体となって、教育内容や指導・支援体制の改善・充実、教育環境の整備などに取り組むことが課題となっています。

また、郷土に誇りと愛着をもって、自分を育んできたふるさとの自然や人、伝統、文化を大切にす気持ちをもち続け、ふるさとや自分が住んでいる地域のよりよいコミュニティづくりに取り組む生徒など、主体的に社会の形成に参画する人材を育成することが求められています。

【教育をめぐる国の動き】

国では、国際化、情報化、科学技術の進展や少子高齢化の進行、価値観の多様化や規範意識の低下など、我が国の教育をめぐる状況が大きく変化し、様々な課題が生じてきたことなどを踏まえ、教育基本法をはじめ学校教育法等の関係法令を改正し、「人格の完成」や「個人の尊厳」など、これまでの教育基本法に掲げられた普遍的な理念を大切にしつつ、「幅広い知識と教養」、「伝統と文化の尊重」などを新たな教育目標として掲げています。

また、我が国の教育改革の基本方針等を示した「第2期教育振興基本計画」[※]の策定により、「社会を生き抜く力の養成」をはじめとする教育行政の四つの基本的方向性と、「生きる力の確実な育成」など具体的方策を明示し、教育に関する施策を総合的かつ計画的に推進することとしています。

さらに、学習指導要領[※]も改訂し、高等学校については、基本的な方針として、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をバランスよく育成することを示しています。

こうした中、中央教育審議会では、高校教育の質の確保・向上に関する基本的な考え方として、全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成という「共通性の確保」と、多様な学習ニーズへのきめ細かな対応という「多様化への対応」を、両者のバランスに配慮しながら進めることが必要であるとし、「共通性の確保」の観点から「高等学校基礎学力テスト（仮称）」[※]の導入や、「多様化への対応」の観点から、高校において、多様な生徒を積極的に受け入れ、多様な学習環境を創り出すことの必要性などが審議されています。

こうした国の教育改革の動向等も的確に捉えた上で、本県教育を取り巻く環境の変化や本県の子どもの状況を踏まえ、自らの将来や社会を力強く切り拓く生徒の育成に向けて、知・徳・体の調和のとれた教育活動の展開など高校教育全体の質の確保・向上をめざした学校づくりを推進することが課題となっています。

※第2期教育振興基本計画：教育基本法に基づき政府が策定する、教育の振興に関する総合計画（第2期計画期間 平成25～29年度）

※学習指導要領：全国どの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、学校教育法等に基づき文部科学省で定められた、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準

※高等学校基礎学力テスト（仮称）：中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」の中で、教育の質の確保・向上を図り、生徒の学習改善に役立てるため、平成31年度からの導入が示された新テスト

2 県立高校の現状と課題

【生徒の多様化】

本県では、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開など、質の高い高校教育を推進するため、平成17年に策定した「県立高校将来構想」に基づき、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備等に取り組み、生徒一人ひとりの能力や個性に対応した多様な教育活動を進めてきました。

しかし、今日の高校においては、中学校卒業者の約98%が高校に進学する中、高度な教育機会を提供することにより、一層向上する生徒がいる一方で、義務教育段階での学習が十分に身に付いていない生徒や中途退学経験者、特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒が入学しています。

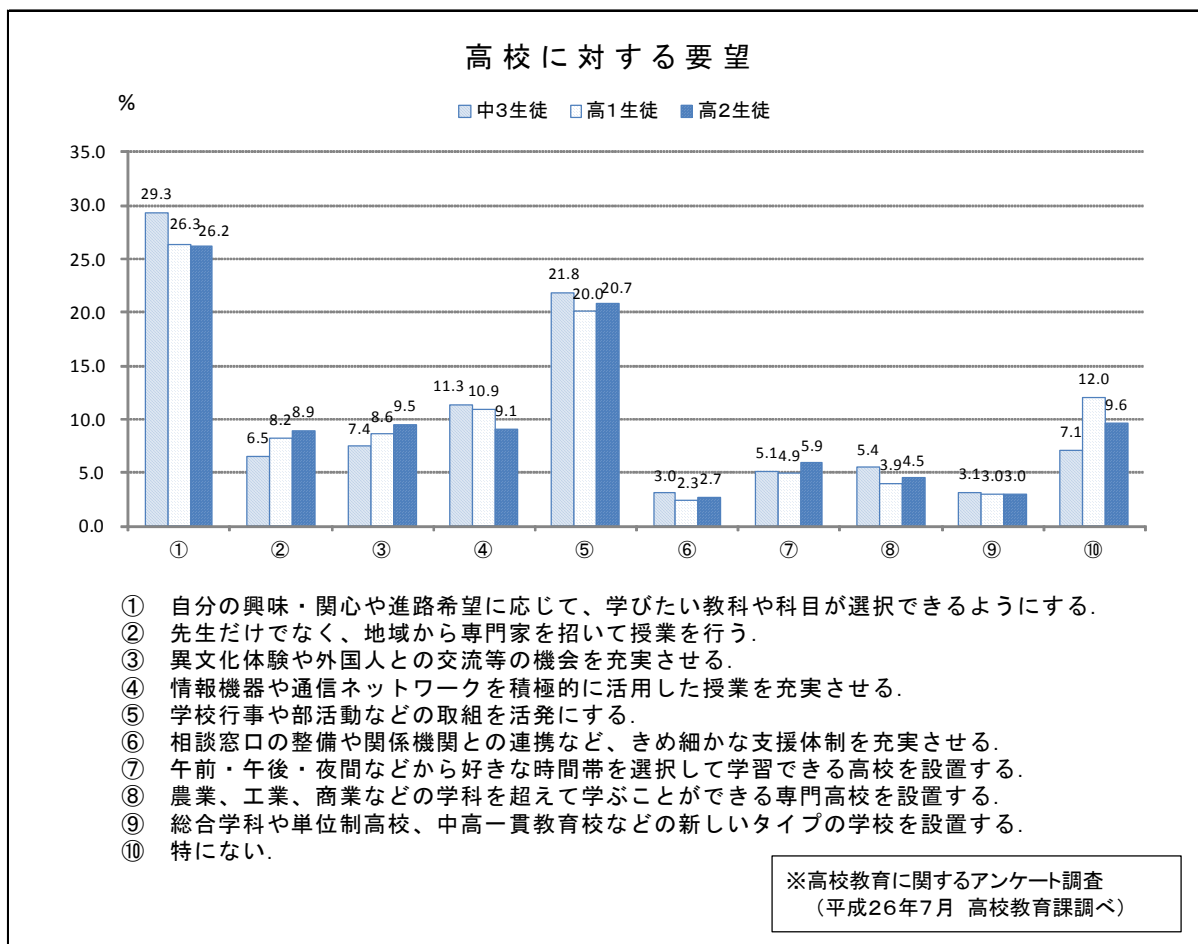
このため、こうした生徒の多様な進路希望や学習動機等の実態を踏まえ、生徒や保護者、地域のニーズに応える特色ある学校づくりを進め、生徒一人ひとりの個性を一層伸ばす選択幅の広い柔軟な教育を推進する必要があります。

【生徒のニーズの多様化】

高校においては、生徒の興味・関心や学ぶ意欲、目的意識等がますます多様化しており、生徒や保護者は、大学等への進学に必要な発展的内容を学習する普通教育や、就職等に必要な高度な職業教育、多様な学習スタイルや学び直しの機会など、県立高校に幅広い期待を寄せています。

平成26年7月に、県内の中・高校生及びその保護者を対象として実施したアンケート調査によると、「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする。」「学校行事や部活動などの取組を活発にする。」などを要望する意見が多く見られます。

こうした生徒や保護者の要望等に応えるために、今後とも、興味・関心、進路希望等に対応した教育内容の充実やきめ細かな指導方法の工夫・改善を行うなど、多様な生徒のニーズに応える柔軟な教育システムの構築が課題となっています。



【中学校卒業生数の減少】

県内の中学校卒業生数の直近のピークは、昭和63年3月の約26,500人であり、それ以降は急激な減少に転じ、平成26年3月には半分以下の約13,100人まで減少が進んでいます。

このような生徒減少に対応し、県教育委員会では、平成17年9月に策定した「県立高校再編整備計画」に基づき、質の高い高校教育を提供するために、1学年4学級から8学級を望ましい学校規模とし、その確保をめざして学校・学科の再編整備を進めてきた結果、望ましい学校規模にある高校の割合が、平成16年の49%から平成26年の69%まで上昇するとともに、全日制課程第1学年の1校あたりの募集学級数の平均も平成16年の3.83から平成26年の4.14まで拡大しました。

しかしながら、今後も、中学校卒業生数の減少傾向は続くものと見込まれ、平成36年3月には約11,600人となり、現在より約1,500人減少すると予測されています。

このため、生徒減少に伴う学校の小規模化が進むことから、引き続き、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を進め、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開など、より質の高い高校教育を提供することが課題となっています。

第3章 今後の県立高校の在り方について

1 めざすべき県立高校像

(1) 県立高校像を考える視点

【生きる力の確実な育成に向けた教育の推進】

知識基盤社会の到来など、社会が複雑化・多様化する中、高校教育においては、生徒一人ひとりがこれからの社会をたくましく生き抜く力を育てていくことが求められています。

このため、基礎的・基本的な知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などを含めた「確かな学力」と「豊かな心」、「健やかな体」の調和のとれた育成など、社会の一員として自立して生きる力を確実に育む教育を推進します。

また、夢や目標を志に高め、他者とのつながりを大切にするとともに、自信と希望をもって自らの将来や社会を力強く切り拓いていく生徒を育成します。

【社会の変化への対応】

社会・経済のグローバル化、産業・就業構造の変化、高度情報化の進展、少子高齢化の急速な進行など、教育を取り巻く社会が激しく変化する中、こうした社会の変化に対応した教育が求められています。

このため、元気を創出していくのは人であるとの認識の下、様々な課題の克服に向けて果敢にチャレンジし、「活力みなぎる山口県」の創造を担う、次代を拓くたくましい人材を育成します。

また、国際社会に的確に対応できる資質・能力をもった人材や、技術革新を支え科学技術の発展を担う人材、産業社会の動向を踏まえた専門的な知識・技能を身に付けた人材、地域活性化のリーダーとして活躍できる人材など、社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成します。

さらに、コミュニケーション能力や情報活用能力、環境に配慮した生活を営む実践的な態度の育成に努めるとともに、時代のニーズに対応した学科改編等により、教育内容の充実を図るなど、様々な社会の変化に対応した教育を推進します。

【生徒の多様化への対応】

現在、高校等進学率が約98%にまで上昇している中、高校に入学してくる生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等はこれまで以上に多様化しており、このような生徒に、よりの確に対応した教育の推進が求められています。

このため、生徒が将来に対する明確な目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるよう、学校の個性化・多様化を図る教育活動を一層充実します。

また、生徒が本当に「行きたい」と思える学校づくりをめざし、引き続き、教育

内容や指導方法の工夫・改善を行うとともに、生徒の多様なニーズに対応した選択幅の広い教育課程を編成するなど、柔軟な教育システムの構築を進めます。

【生徒減少への対応】

今後も中学校卒業生数の減少が予測され、学校の小規模化が見込まれる中、生徒の多様な学習ニーズに対応するためには、学校の規模を拡大し、充実した教育環境を整える必要があります。

このため、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開など、高校教育の質の確保・向上に向けた取組を進めることができるよう、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を推進します。

また、地域による中学校卒業生数の減少状況の違いなどに対応し、地域の実情を踏まえた学校・学科の設置や適正な定員設定に努めます。

【現行構想の成果と課題】

これまで、平成17年に策定した「県立高校将来構想」に基づき、高校教育の質的向上をめざして特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備を推進してきました。

こうした中、再編統合した学校においては、学校規模を拡大し、単位制の導入や教育課程の工夫等により、進路希望に応じた科目選択、学科を越えた学習や資格取得など、選択幅の広い学習に取り組むとともに、地域と連携して、地域の行事への積極的な参加や地元特産品を使った商品開発等により地域の活性化に貢献するなど、特色ある教育活動を展開しています。

また、部活動においても、選択肢の拡大や部員数の増加が図られ、競技力が向上し全国的な活躍が見られるなど、学校全体が活性化し、生徒にとって魅力ある学校づくりが進んでいます。

さらに、平成26年に実施した高校教育に関するアンケート調査の結果によると、高校生活の満足度について、「満足している」または「だいたい満足している」と回答した高校生・保護者の割合は、それぞれ約9割であり、平成14年に実施した同様のアンケート結果と比べ、ともに約1割上昇しています。

一方、再編整備実施校の中には、入学者数が募集定員に満たない学校があることや、分校化した学校では、本校との連携をより一層進める必要があることなどの課題も見られます。

このため、今後の更なる生徒数の減少も見据えながら、引き続き、学校の特色づくりと学校・学科の再編整備、適正な定員設定などを進め、高校教育の質の確保・向上に努めます。

(2) 基本的コンセプト（学校づくりの方向性）

県立高校においては、生徒一人ひとりに将来の夢をかなえるために必要な資質・能力を身に付けさせ、たくましく未来を切り拓くことのできる力を育むとともに、生徒の多様なニーズに対応した活力ある教育活動の展開など、より質の高い教育が提供できる教育環境や教育条件の整備・充実を図る必要があります。

また、複雑化・多様化する教育課題に的確に対応するためには、学校と家庭・地域が相互の連携を深め、地域社会と一体となって子どもたちの成長を支援することが期待されています。

このため、今後、全ての県立高校が、以下に示した3点の方向で学校づくりを進めます。

- 生徒が夢を育み、志をもって学ぶ学校
- 生徒や教職員が生き生きと活動し、活力のある学校
- 地域に愛され、地域とともにある学校

【生徒が夢を育み、志をもって学ぶ学校】

- 生徒一人ひとりの能力・適性等を最大限に伸ばす魅力ある学校づくりを推進する。
- 自らの進路目標に向かって、常に意欲をもって学習や諸活動に取り組むことができる教育課程の工夫・改善や少人数指導^{*}等のきめ細かな指導の充実を図る。
- 将来、社会人としての自覚をもって自立し社会に貢献できるよう、主体的に自己の進路を選択し決定する能力の育成をめざしたキャリア教育^{*}を充実させる。
- 生徒の多様な学習ニーズに的確に対応した柔軟な学びのシステムをもつ学校づくりを推進する。

【生徒や教職員が生き生きと活動し、活力のある学校】

- 生徒が自ら学び考え、わかる喜びやできる喜びを実感できる学校づくりを推進する。
- 生徒が様々な人々との交流を通して互いに切磋琢磨^{せつさたくま}し、主体性をもって学校生活を送ることができる学校づくりを推進する。
- 教職員が生きがいを感じ、自信と誇りや意欲をもって教育活動にあたる学校づくりを推進する。

※少人数指導：学級単位ではない少人数の学習集団を編制して指導を行うこと

※キャリア教育：生徒一人ひとりの勤労観・職業観を育成するとともに、自己にふさわしい生き方を実現しようとする意欲・態度や能力を育てる教育

- 生徒の多様なニーズに応え、生徒が自主的・自発的に活動できるよう、学校行事や部活動等の活性化を図る。

【地域に愛され、地域とともにある学校】

- 学校がもつ教育力の地域への還元と、大学や企業、人材等の地域がもつ教育力の積極的な活用など、学校と地域との双方向による連携・協力を行う学校づくりを推進する。
- 学校評価^{*}を積極的に活用し、保護者や地域の声を学校運営に生かすなど、開かれた学校づくりを進め、県民に信頼され期待に応える学校運営を推進する。
- ふるさとへの誇りや愛着を育み、地域の活性化を担う人材育成に向け、本県の恵まれた自然環境や優れた伝統・文化などを活用した創造的な教育活動を推進する。

2 教育活動の充実

(1) 確かな学力を育成する教育の充実

新たな時代を見据え、生徒たちが変化の激しい社会をたくましく生き抜くためには、「基礎的・基本的な知識・技能」「それらを活用して課題を解決するために必要な思考力や判断力、表現力等の能力」「主体的に学習に取り組む態度」という、学力の三要素から構成される「確かな学力」を育成する必要があります。

このため、一人ひとりの生徒が希望する進路を実現するための学力向上をめざし、生徒の基礎学力の定着状況に応じた習熟度別指導^{*}や少人数指導、個別指導等、きめ細かな指導の充実を図るとともに、論述・討論などの言語活動や観察・実験を重視した探究活動など、多様な学習活動を推進します。

また、発展的な学習の導入や義務教育段階での学習内容の学び直し等、生徒の興味・関心、能力・適性等に応じた学びの機会の拡充を図ります。

さらに、家庭と連携して、生徒自らが自己の生活を管理し、将来の目標に向かって努力する姿勢を育むよう、家庭学習習慣の確立に努めるとともに、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを含めた生徒の学習状況の適切な評価や、「指導と評価の一体化」^{*}を図った指導の改善に生かせる評価を行うなど、評価の工夫・改善を進めます。

※学校評価：各学校が教育目標とそれに基づく教育活動その他の学校運営の状況等について評価し、改善を図ることにより、教育の質の向上をめざすとともに、よりよい学校づくりを進めていくために実施するもの

※習熟度別指導：学習内容の理解や技能の程度に応じて指導を行うこと

※指導と評価の一体化：指導した結果を評価し、その評価結果を次の指導に生かすこと

(2) 豊かな心を育む教育の充実

家庭や地域における人と人とのつながりが希薄になる中、生命の重さや人権を尊重する心、自立する心や責任感、他者を思いやる心や社会貢献の精神、郷土を愛する心など、豊かな心を育む教育の充実が求められています。

このため、自他の人権を守る実践行動につながる意識・意欲・態度を育てる人権教育を充実させるとともに、ボランティア活動等の社会奉仕活動や就業体験等の体験活動を積極的に導入し、良好な人間関係を構築する力や、自省的な態度、自尊感情等を育成する教育活動の充実を図ります。

また、道徳教育を効果的に実施するため、全ての教育活動を通じた「道徳教育の全体計画」を作成し、人間としての在り方・生き方についての自覚を醸成します。

さらに、郷土をはじめ我が国及び諸外国の歴史、伝統、文化に対する理解を深めるとともに、それらを尊重する態度や文化芸術を愛好する情操を育成するため、文化部活動の活性化や、学校図書館の活用等による読書活動の推進、優れた文化・芸術を鑑賞する機会等の充実に努めます。

(3) 健やかな体を育む教育の充実

生徒が生涯にわたって心身ともに充実した生活を送るためには、健やかな体を育む教育の推進が重要です。

このため、たくましく生きるための体力の向上や心身の健康の保持増進を図るよう、各教科・科目、特別活動等、教育活動全体を通じて健康や安全に関する指導の充実に努めます。

また、総合運動部^{*}や複数校合同運動部活動など、種目や学校の枠を越えた運動部活動の取組を検討するとともに、外部指導者の導入や地域スポーツクラブ等との連携などにより運動部活動の活性化を図り、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ習慣や意欲、能力の育成に努めます。

(4) 進路指導の充実

生徒の進路希望が多様化する中、高校は自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関であることから、自己にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度の育成に向けて、社会的・職業的自立や、生涯にわたるキャリア形成を支援するキャリア教育の一層の推進が求められています。

このため、望ましい勤労観・職業観をはじめ、社会的自立に向けた基礎的・汎用的能力^{*}の育成をめざし、企業訪問やインターンシップ等をはじめとして、学校と家庭、

※総合運動部：シーズンによって複数の種目に取り組むことができる運動部

※基礎的・汎用的能力：中央教育審議会が平成23年1月の答申の中で社会的・職業的自立に向けて必要な能力としてまとめたもので、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成される

地域、産業界等が連携した“オールやまぐち”でのキャリア教育を推進します。

また、高大連携教育の充実等により生徒の進学意欲の向上を図るとともに、専門家を活用した校内外における研修会等の取組の充実により教職員の指導力の向上をめざすなど、進学指導の充実に努めます。

さらに、「ガイダンスの充実」「求人開拓の強化」「マッチングの促進」を三つの柱とし、就職ガイダンスや職場体験等を通じて職種や職場の理解を促進するとともに、生徒の意向を踏まえた広域での求人開拓によりミスマッチの防止に努めるなど、県内就職をはじめとした就職支援を推進し、就職率・定着率の一層の向上を図ります。

(5) 生徒指導、相談・支援体制の充実

生徒指導にあたっては、豊かな人間性の育成に向けた心の教育の基盤となる開発的生徒指導^{*}の推進を通して、問題行動等の未然防止を図ることが重要です。

このため、学校の教育活動全体を通して、生徒の心身の成長の過程に即して規範意識を育成するなど、計画的・系統的な取組を進めるとともに、スクールカウンセラーを活用したカウンセリング体制の充実や個別の教育相談の実施、生活アンケートF i t^{*}の活用、教職員研修の充実、校種間の連携の強化など、問題行動や不登校の早期発見・早期対応に向けた生徒指導・教育相談体制の充実を図ります。

また、やまぐち総合教育支援センターにスクールソーシャルワーカー^{*}やネットアドバイザー^{*}等の専門家を配置し、相談・支援体制の充実を図るとともに、専門家チームの派遣による緊急時の学校支援体制の充実を努めます。

さらに、喫緊の課題であるいじめ問題については、「山口県いじめ防止基本方針」に基づく各学校の基本方針に則って、「未然防止」「早期発見」「早期対応」「重大事態への対応」の視点に立った取組を、学校、家庭、地域、関係機関等が連携して、社会総がかりで推進します。

(6) グローバル人材の育成

国際化が進展する中、日本人としてのアイデンティティや日本の文化・歴史に対する深い教養を前提とし、社会の様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成することが求められています。

※**開発的生徒指導**：児童生徒が自己のよさに気づき、自らを主体的に伸ばしていこうとする取組を重視した生徒指導
※**F i t**：中高生対象の学校生活等への適応感を測定するためのアンケート調査（山口大学と連携して平成24年に作成）

※**スクールソーシャルワーカー**：教育分野に関する知識に加え、社会福祉等と専門的な知識や技能を用いて、児童生徒が置かれた様々な環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用し、問題を抱える児童生徒の支援を行う専門家

※**ネットアドバイザー**：携帯電話やインターネット等の専門性を有し、ネットケータイ問題に関わるトラブル等に対し、助言や支援を行う専門家

このため、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や実践的な英語運用能力の育成をはじめ、国際感覚や国際的なものの見方・考え方などの^{かんよう}涵養をめざし、世界スカウトジャンボリー*の開催を契機として、外国人とふれあう機会の継続的な創出や、県内大学で学ぶ留学生との積極的な交流を図るなど、コミュニケーション能力や諸外国の伝統・文化を理解・尊重する態度を育成する教育活動の充実に努めます。

また、生徒の興味・関心等に応じて、外国語や国際理解について発展的に学習できる高大連携教育等を推進するとともに、スーパーグローバルハイスクール*をはじめとして、国際協調・協力を実践する態度の育成に向けた取組の拡充を図ります。

さらに、異文化理解を進めるにあたっては、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と誇りの醸成を図ることが重要であるため、郷土をはじめ我が国の伝統・文化とその価値に対する理解を深める教育活動の充実に努めます。

(7) ICT活用の推進

情報通信機器の発達により、生徒を取り巻く環境が急激に変化する中、多様な情報を適切に取捨選択し活用する力や、情報社会に参画する望ましい態度、正しい情報モラルを身に付けた人材の育成が求められています。

このため、デジタル教材や大型表示装置、タブレット型コンピュータ等のICT*機器を活用し、わかりやすく理解を深める授業を展開するなど、指導方法の工夫・改善を図るとともに、テレビ会議システムによる双方向型の授業の導入に努め学校間の連携や交流を支援するなど、教育の情報化に向けた検討を進めます。

また、高度情報通信社会に対応した情報活用能力の育成を図るため、情報手段の適切な活用や情報の的確な選択など、主体的に情報を処理・発信していくための基礎的な資質・能力の育成に重点を置いた学習活動や、ネットアドバイザーの活用等による情報モラル教育の充実に努めます。

※世界スカウトジャンボリー：4年に1度開催されるボーイスカウトの世界最大の祭典。2015年（平成27年）の山口大会は7月28日～8月8日の12日間、山口市阿知須のきらら浜で、162の国・地域から約3万人が参加して開催予定

※スーパーグローバルハイスクール：国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校

※ICT（情報通信技術）：コンピュータやインターネットなどの情報コミュニケーション技術（Information and Communication Technology）

3 教育環境の充実

(1) 教職員の資質能力の向上

学校教育の課題に的確に対応し、活力ある学校づくりを進めるためには、一人ひとりの教職員がそれぞれの資質能力をさらに高めることが必要です。

このため、「教職員人材育成基本方針」に示す「五つの基本方針」に基づき、学校体験制度^{*}や教育実習の充実等により、大学等と連携して意欲ある優秀な人材の養成・確保に努め、教員の指導力を向上させる取組をより一層推進します。

また、教員採用選考試験の改善、教職員評価^{*}、やまぐち総合教育支援センターでの研修や大学院等への派遣研修、積極的な人事異動など、様々な人材育成に関する取組を充実させ、本県教育を担う人材を育成するための総合的な取組を積極的に推進します。

(2) 学校運営の活性化

学校教育が抱える課題や学校教育に対する期待が複雑化・多様化する中、組織的・機動的な学校運営を実践していくことが一層重要となっています。

このため、各学校における自己評価^{*}や学校関係者評価^{*}の充実を図るとともに、学校評価結果の公表など積極的な情報提供を進め、学校の課題を保護者や地域と共有する取組や、アンケート等を通して把握した保護者や地域の意見を学校運営に反映させる取組を推進します。

また、各学校の学校運営をより一層活性化するため、校務分掌等の主任として学校運営に参画することとなるミドルリーダーの育成に努めるとともに、教職員一人ひとりの学校運営への参画意識の向上を図る取組を進めます。

さらに、学校運営の中心となる管理職の資質能力の向上をめざし、マネジメント能力を有する管理職候補者の育成に取り組むとともに、管理職の選考方法の改善・充実を図ります。

(3) 地域と連携した学校づくり

本県では、次代を拓く子どもたちや若者を育成するため、市町立小・中学校におけ

※**学校体験制度**：教員を志望する学生が、早い段階で教員という職の魅力を実感し、教育に対する意欲を高めることができるようにするため、山口県教育委員会が各市町教育委員会と連携し、県内の公立の小学校、中学校又は高等学校において教育活動を体験する制度

※**教職員評価**：管理職と教職員の面談等を通して、教職員のよさや課題を把握するとともに、目標達成に向けた取組や指導助言を通して、教職員の資質能力や意欲の向上に取り組むことができる教職員の評価制度

※**自己評価**：学校評価の基本となるものであり、校長のリーダーシップの下、当該学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うもの

※**学校関係者評価**：保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価

るコミュニティ・スクール^{*}の設置率100%を数値目標として掲げ、社会総がかりでの「地域教育力日本一」の取組を進めることとしており、高校教育においても地域と連携し、地域から信頼される学校づくりを一層推進することが重要です。

このため、保護者や地域の声を学校運営に反映させるコミュニティ・スクールの高校への導入を検討するとともに、学校施設の開放や開放講座の開設など高校がもつ人的・物的な教育機能の地域社会への還元や、ボランティア活動など地域を活性化する取組、地域に貢献する取組の充実に努めます。

また、「地域の子どもは地域で育てる」を基本として小・中・高等学校の連携の強化を図り、学習指導・生徒指導・進路指導の充実に努めます。

さらに、社会や企業から求められる資質・能力を備えた人材を育成するため、県内大学や地域の産業界等と連携した教育活動を推進します。

(4) 安心・安全な学校づくり

子どもたちの生命と安全を脅かす事件・事故・災害は後を絶たず、これまでに経験したことのない地震・津波や集中豪雨等の自然災害が発生するなど、その内容も広範・多岐にわたることから、事件・事故等の防止とともに、災害等の発生時の被害を最小限にするため、安心・安全な学校づくりの取組を総合的かつ効果的に行うことが求められています。

このため、子どもたちが、自らの命を自ら守るために主体的に行動できる力に加えて、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を身に付けることをめざし、各教科の授業、総合的な学習の時間、特別活動など、学校の教育活動全体を通して、「防犯を含む生活安全」「交通安全」「災害安全（防災）」の学校安全3領域に係る総合的・計画的な安全教育を推進します。

また、教職員研修の充実等により教職員の安全意識の向上と危機対応力の強化を図るとともに、P D C Aサイクル^{*}に基づいた危機管理マニュアルの改善や安全点検の工夫など各学校の安全管理の充実に努めます。

さらに、学校安全活動をより効果的に進めるためには、生徒の安全に関わる全ての関係者が連携して取り組んでいくことが大切であり、警察・関係機関等による専門的指導機会の確保、学校から保護者・地域へのホームページ・携帯メール等による積極的な情報発信など、関係者がより密接に連携し、社会全体で生徒たちの安心・安全を支える体制づくりを進めます。

※コミュニティ・スクール：教育委員会から任命された保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりする「学校運営協議会」が設置されている学校

※P D C Aサイクル：目標を明確に設定し、成果を客観的に検証し、そこで明らかになった課題等をフィードバックし、新たな取組に反映させるサイクル

P (Plan：目標・計画) → D (Do：実施) → C (Check：評価) → A (Action：改善)

(5) その他

安全で良好な教育環境の整備をめざし、県立学校の耐震化を着実に進めるとともに、施設の老朽化対策や再編整備等により必要となる施設・設備を計画的に整備するなど、質の高い教育環境づくりに努めます。

また、経済的理由により修学が困難な生徒に対して、引き続き、奨学金制度の周知・拡充を図るなど、修学支援の充実に努めます。

1 特色ある学校づくり

中学校卒業生数の減少が見込まれる中、生徒の興味・関心や学ぶ意欲、目的意識等のニーズの多様化に対応し、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備の推進が必要です。

このため、大学等への進学に重点を置く取組や高度な専門性をもった産業人材を育成する取組を充実するなど、拠点的な役割をもつ学校について、分散型都市構造^{*}にある本県の特長も考慮した配置を検討するとともに、地域社会の教育力を活用した地域ぐるみの教育活動を推進します。

また、平成28年度から実施する全日制普通科の通学区域の全県化を踏まえ、中学生が主体的に学校選択をすることができるよう、各高校の個性化・多様化を図る特色づくりを一層推進するとともに、生徒のニーズや地域の状況の変化等を踏まえながら、学校・学科の適切な設置や適正な定員設定などに努めます。

さらに、学校・学科の再編整備に取り組む中で、選択幅の広い学習が可能な学校・学科を設置するとともに、各高校の歴史や伝統、地域の特長等を踏まえた特色づくりに努めます。

(1) 全日制課程の方向性

【普通科系の学科】

生徒の多様な進路希望や能力・適性、興味・関心等に対応し、一人ひとりの個性を伸ばさせるため、教科・科目の選択幅などが拡大できるよう、再編統合による学校規模の拡大を進めるとともに、地域バランスも考慮しながら単位制^{*}高校の拡充等を検討します。

また、生徒や保護者の大学等への進学ニーズを踏まえ、進路希望の実現につながる確かな学力を育成するため、大学等への進学に重点を置く取組を拠点となって進める高校について、地域バランスを考慮した配置を検討するとともに、理数科、英語科を含め普通科の魅力づくりを進める中で、関係機関等と連携しながら、知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視する新しい学科「探究科（仮称）」への改編も検討します。

さらに、これからの時代に必要な資質・能力を高める事業であるスーパーグローバ

※分散型都市構造：中核となる都市がなく、中小都市が分散する地域構造

※単位制：学年による区分を設けない教育課程に従って、生徒が多様な科目を選択し単位を修得することを可能にするしくみ

ルハイスクールやスーパーサイエンスハイスクール^{*}、ユネスコスクール^{*}などの取組を積極的に活用し、次代を担うグローバル人材や科学技術系人材の育成をめざし、国際教育、理数教育の一層の充実に努めるとともに、発展的な学習や義務教育段階での学習内容の学び直し等を可能とする教育課程の工夫・改善に努めます。

【専門学科】

近年の急速な技術革新や産業構造の変化等に伴い、産業界で求められている専門的知識・技能は高度化していることから、本県産業の次代を担う各専門分野のスペシャリストを育成するため、地域の特性を生かして産学公連携カリキュラム^{*}など地域産業界や関係機関等と連携した取組や、より高度な専門資格取得にも対応した教育を推進するとともに、学習意欲やコミュニケーション能力の向上をめざし、学習成果を発表する機会の充実に努めます。

また、生徒や地域の実態・ニーズ等に対応した選択幅の広い学習や活力ある教育活動の展開が可能となるよう、再編統合や学科改編を行うとともに、学科ごとに専門性をリードする高校の適切な配置や、実験・実習設備等の計画的な整備について検討します。

さらに、望ましい職業意識やマナー、責任感など、社会人として求められる基礎的な能力・態度を育成するため、地元企業等と連携した職業体験や、学校のもつ教育機能の地域への積極的な提供など、地域との連携に重点を置いた実践的な職業教育を一層推進します。

〔農業に関する学科〕

農林業従事者の減少・高齢化、生産技術の高度化等に伴い、地域の農林業及び関連産業の担い手となる人材、地域づくりや環境保全等の活動に積極的な関わりをもち、将来、地域社会に貢献できる人材を育成することが求められています。

このため、農林業に係る基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、6次産業化^{*}等の新しい取組にチャレンジできる人材の育成をめざし、地域社会や産業界、大学・研究機関等と連携したプロジェクト学習（PDC Aサイクルによる課題解決型学習）などの実践的な取組や、関連する幅広い分野について学習できるよう他の専門

※スーパーサイエンスハイスクール：文部科学省の指定を受け、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、理数系教育の充実に努める取組を行う学校

※ユネスコスクール：ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実施する学校

※産学公連携カリキュラム：企業や大学及び行政機関等の設備・技術や人材等を活用しながら、地域産業と連携した課題解決学習や技術研修等を行う取組

※6次産業化：農林水産物の生産（1次産業）だけでなく、加工（2次産業）や流通・販売（3次産業）を含めた一体的な取組を進めること

学科等との連携を推進します。

また、農林業教育に対する生徒や保護者、地域等のニーズに全県的な視点に立って対応できるよう、地域バランスを踏まえて拠点的な役割をもつ学校の配置を検討するとともに、こうした拠点的な学校と他の農林業教育の機能を有する学校とのネットワークを構築し、県全体の農業教育の充実に努めます。

さらに、農林業に関する教育の実績など学校のもつ教育機能を地域に提供して、地域の特産品を活用した商品開発や小・中学生を対象とした農業体験学習など、地域の活性化を支援する取組を充実します。

[工業に関する学科]

工業技術の高度化や経済のグローバル化の進展に伴い、本県産業力の再生・強化に向けて、専門的な知識と技術を習得し、将来のスペシャリストとして産業の各分野の変化にも柔軟に対応できる実践的な技術と技能を併せもつ本県のものづくり産業を牽引する人材の育成が求められています。

このため、少人数指導などのきめ細かな指導の充実等による基礎・基本の確実な定着はもとより、専門性の深化と向上心を育成する資格取得や、高い志と積極性・創造性を育成するものづくりコンテストへの参加などを推進します。

また、本県ものづくりの伝統を継承し先端技術の習得を図るため、地域や地元産業界と連携した長期のインターンシップなどの体験的な学習に積極的に取り組むとともに、他の専門学科と連携し、ものづくりの技術・技能を高める学習の充実に努めます。

さらに、生徒・保護者や地域のニーズに対応し、選択幅の広い学習が可能となるよう、再編整備により学校規模を拡大し、学習環境の充実に努めるとともに、多様な専門分野と専門性を追求することのできる工業教育の拠点的な役割をもつ学校を地域バランスに配慮しながら配置するよう検討し、企業・大学・研究機関等と連携した実践的な工業教育の一層の推進に努めます。

[商業に関する学科]

経済社会の国際化、情報化、サービス化の急速な進展に伴い、コミュニケーション能力や情報活用能力なども含めたビジネスに関する幅広い知識・技術をもち、ビジネス活動を主体的・創造的に行い、経済社会の発展を担う将来のスペシャリストの育成が求められています。

このため、再編整備により学校規模の拡大を図り、工業に関する学科など他の学科と連携した総合的・実践的な商業教育を進めます。

また、情報通信ネットワークを活用したビジネスの広がりや経済のグローバル化に対応できるよう、商業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させた上で、情報通信技術をビジネスの諸活動に応用する能力やビジネスに必要な実践的コミュニケー

ション能力を高められるよう、教育内容や指導方法の改善・充実に努めます。

さらに、起業家精神をもって主体的に将来の地域を支える人材の育成をめざし、産学公との連携を通して、地域振興方策の提案などを行う探究的・課題解決的な学習活動や、地元企業等と共同して行う商品開発や販売実習などの体験的な教育活動を一層推進します。

[水産に関する学科]

水産物の世界的需要の拡大や水産物の安定供給の必要性の高まり、海洋環境の保全や海洋の多面的活用など海洋に関する国際的関心の高まり等、水産業や海洋を取り巻く状況の変化に伴い、次代の本県水産業や海洋関連産業の発展に貢献できる人材の育成が求められています。

このため、航海技術、漁業生産技術や海域の特性を生かした資源管理・種苗生産や付加価値を高めた加工技術・製品開発、海洋環境の保全に関する教育の一層の充実に努めるとともに、福岡・長崎両県と共同で運航する大型実習船「海友丸」において、3県の教職員が連携してきめ細かな技術指導を行う共同実習をはじめ、地域社会や産業界等と連携したプロジェクト学習やインターンシップなど体験的な学習を積極的に展開し、実践力が身に付く水産教育を推進します。

また、6次産業化の進展に対応するため、他の学科や分野（農・工・商）との連携を強化するとともに、専門性の深化をめざした他県の水産高校等との交流や関連資格の取得を推進するなど、幅広い水産教育の充実に努めます。

[家庭に関する学科]

ライフスタイルの多様化が進む中、食育の推進などの社会の要請や多様な消費者ニーズに的確に対応しながら、高度化・サービス化が進む生活関連産業分野において活躍できる人材の育成が求められています。

このため、地域産業との連携を積極的に図りながら生活の質の向上をめざす実践的な学習活動や、他の学科との再編統合や連携を通して互いの専門性を生かしながら課題解決に取り組む学習活動を進めます。

また、生活関連産業に関する基礎的・基本的な知識と技術の確実な習得をめざして、幅広い資格取得や各種コンテストへの参加、生活関連産業に従事する者として求められる倫理観の育成をめざした体験学習や就業体験等を推進するなど、教育内容の充実に努めます。

[看護に関する学科]

近年の医学・医療の進歩・発展に伴い、必要とされる看護サービスの高度化・専門分化が進む中、こうした変化に十分対応できる専門的知識・技術や豊かな人間性、的

確な看護判断能力*など高い資質・能力を有する人材の育成が求められています。

このため、将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本を一層重視するとともに、医療施設だけでなく看護が実施されている様々な施設での実習や、医療職・福祉職等の社会人講師の積極的な活用など、教育活動の更なる充実に努めます。

また、地域や産業界等と連携し、看護倫理やコミュニケーション能力などの豊かな人間性を育成するため、産業現場等における長期間の看護実習などの就業体験や、看護技術を生かした地域社会との交流活動の推進に努めます。

【福祉に関する学科】

高齢化の進展に伴い、増大が予想される介護に対するニーズに応えるよう、質の高い福祉人材の育成が求められています。

このため、介護福祉士の資格取得をめざすための高度な専門教育を行い、幅広い教養と豊かな人間性を備えた質の高い介護福祉士を養成する福祉専攻科*を設置するとともに、福祉教育の質的向上をめざし、大学や専門学校等との連携に努めます。

また、福祉に関する生徒の興味・関心を高めるため、積極的な授業公開とともに、小・中学生や保護者を対象とした実習体験、地域の社会福祉団体など関係施設等との相互交流などを図ります。

【総合学科】

社会が変化し、生徒のニーズが多様化する中、総合学科においては、生涯にわたって学習に取り組む意欲・態度や、職業選択に必要な能力・態度の育成を行うなど、生徒の多様なニーズに対応した特色ある教育活動が求められています。

このため、地域のニーズや生徒の実態を踏まえた教育課程となるよう学校設定科目や系列の見直しを図るとともに、進学指導を重視した教育活動を充実させるなど、更なる魅力づくりを進めます。

また、生徒の多様な進路希望等に対応した幅広い選択科目の設定ができるよう、異なる学科との再編統合について検討し、一定の学科規模の確保に努めます。

さらに、企業見学やインターンシップ等、地域と連携したキャリア教育やガイダンス機能を充実させ、生徒一人ひとりが明確な目的意識をもって進路希望に応じた学習が可能となるよう、きめ細かな進路指導に努めます。

※看護判断能力：医療の高度化、患者の高齢化・重症化等に対応し、フィジカルアセスメント等に関する専門性の高い判断能力

※専攻科：高校を卒業した者がより高度な教育を受ける課程

(2) 定時制・通信制課程の方向性

定時制・通信制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制課程からの転入学者、中途退学者など、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっており、こうした多様な学びのニーズに応える学校として、その役割が増えています。

このため、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とする新しいタイプの多部制*定時制課程の設置や、活力ある教育活動が展開できるよう夜間定時制課程の再編統合について検討します。

また、3年修業制*や単位制の拡充など、より柔軟な教育システムの構築を進めるとともに、計画的なインターンシップを実施するなど、生徒のキャリア発達*を支援する教育活動の充実を図り、若者の社会的自立を支援します。

さらに、県民の多様な学習ニーズに対応するため、社会人のための聴講制度*の導入を検討するなど、学校の教育機能を活用した学習機会の提供に努めます。

現在ある通信制課程については、多部制の定時制課程を置く高校に併置する方向で検討するとともに、平日スクーリング*の拡充や遠隔授業の活用等による教育活動の充実を図ります。

(3) 中高一貫教育の推進

中高一貫教育*は、従来の中学校・高等学校の制度に加えて、6年間の一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の多様化・複線化を推進するものであり、全国的にも設置校数が年々増えてきています。

こうした中、児童生徒や保護者・地域のニーズ等を考慮しながら、適正な定員配置や進学指導に重点を置いた中高一貫教育校の設置などを検討し、中高一貫教育の推進に努めます。

また、6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、個性の伸長や優れた才能の発見ができるよう、生徒の多様な進路希望等に的確に対応した教育課程の一層の充実を図ります。

さらに、社会性や豊かな人間性などを育成するための教育活動の充実に向けて、異年齢集団による生徒同士の活動を充実させるとともに、地元小・中学校や地域等と連携した社会総がかりの教育活動の工夫・改善に努めます。

※多部制：定時制課程において、午前部、午後部、夜間部など、学習時間帯を選択して学ぶことができるしくみ

※3年修業制：定時制課程、通信制課程では、修業年限は「3年以上」と定められているが、定時制の生徒が通信制の科目等を履修すること（定通併修）で、3年間で卒業できるしくみ

※キャリア発達：社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を展開していく過程

※聴講制度：社会人等が高校の授業に参加する制度

※スクーリング：通信制課程の生徒が登校し、教師から直接指導を受けること

※中高一貫教育：中学校と高等学校の6年間で接続し、6年間の学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的として導入された制度

2 学校・学科の再編整備

(1) 再編整備の必要性

本県では、質の高い高校教育を推進するため、現行の「県立高校将来構想」に基づき、学校・学科の再編整備等に積極的に取り組んできたところです。

こうした取組により、全日制課程の1学年3学級以下の本校については、平成17年度は34校で、本校66校の半数を超えていましたが、平成26年度では、本校52校中16校という状況になっています。

また、全日制課程第1学年の1校あたりの募集学級数の平均については、平成16年度では、全国5.65に対して、山口県は3.83と、全国でも最小の規模であったものが、平成26年度では、全国5.66に対して、山口県は4.14まで規模が拡大したものの、それでもなお、全国で5番目に小さい規模となっています。

このような現状にあって、今後とも、中学校卒業生数の継続的な減少による学校の小規模化が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要です。

(2) 望ましい学校規模

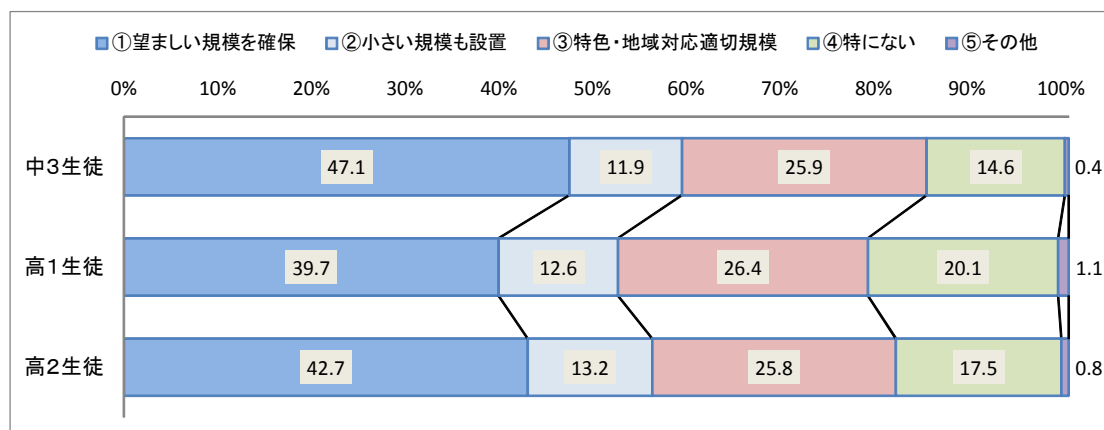
全日制課程の学校規模については、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開などに視点を置き、学校規模別の開設科目数、配置教員数、部活動数とともに、アンケート結果等も踏まえて検討した結果、1学級あたりの生徒数を原則40人として、これまでと同様に1学年4～8学級を望ましい学校規模とします。

なお、10年後に向けては更なる生徒減少が見込まれますが、拠点的な役割をもつ学校も必要であることから、望ましい学校規模の最大は1学年8学級とします。

学校の小規模化が見込まれる中、望ましい学校規模を確保することにより、次のような教育的効果が期待できます。

- 教員数が多く、選択幅の広い多様で柔軟な教育課程が編成できる。
- 生徒数が多く、学校行事や生徒会活動、部活動等が活性化する。
- 集団の中で切磋琢磨することで社会性とたくましさを培うことができる。

再編整備にあたり望むこと



- ① 授業や部活動等を活性化するため、望ましい学校規模を確保した学校を設置する。
- ② 生徒どうしや生徒と教員が密接な関係を築くことができるよう、小さい規模の学校も設置する。
- ③ 教育内容の特色、生徒や地域の状況に応じた適切な規模の学校を設置する。
- ④ 特がない。
- ⑤ その他。

※高校教育に関するアンケート調査
(平成26年7月 高校教育課調べ)

学校規模別の開設科目数等の状況

	2学級規模	4学級規模	6学級規模	8学級規模
生徒数(収容定員)	240	480	720	960
開設普通科目数	19.3科目	23.3科目	26.5科目	28.5科目
教員数	17.7人	31.0人	52.5人	56.0人
部活動数	10.3部	19.7部	27.1部	32.0部

(平成26年度 高校教育課調べ)

(3) 再編整備の進め方

再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立高校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や分散型都市構造にある本県の特性も踏まえ、次のような方針に基づいて、年次的かつ計画的に取り組めます。

- ① 全日制課程の1学年3学級以下の小規模校の再編統合を基本として、他の学校との再編統合により、望ましい学校規模の確保をめざします。

なお、1学年3学級の中高一貫教育校の学校規模については、学校全体の学級数を考慮することとします。

- ② 1 学年 2 学級の学校について、生徒の通学実態等から望ましい学校規模の確保をめざした近隣の学校との再編統合が困難な場合には分校化を検討し、その際の最小学校規模は 1 学年 1 学級とします。
- ③ 全日制課程を置く分校については、将来的に入学者が定員の二分の一を満たすことが見込まれない場合、募集停止を検討します。
- ④ こうした再編整備の実施にあたっては、高校教育の質の確保を図る観点や地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響等を、総合的に勘案しながら検討します。

(4) 配慮事項

再編整備の対象校であっても、組織的に地域と連携した特色ある教育活動を行う学校や、学び直しや不登校等の多様な学びのニーズに対応した柔軟で弾力的な教育活動を展開する学校など、県全体の教育効果を高めることが特に期待される学校においては、当面は学校を維持することも検討します。

第5章 将来構想の推進について

1 地域社会との協働

本県では、地域とともにある学校づくりや地域ぐるみの支援を一層充実させるため、市町立小・中学校において、コミュニティ・スクールの設置率100%の達成をめざすなど、学校・家庭・地域が一体となった社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組を推進することとしています。

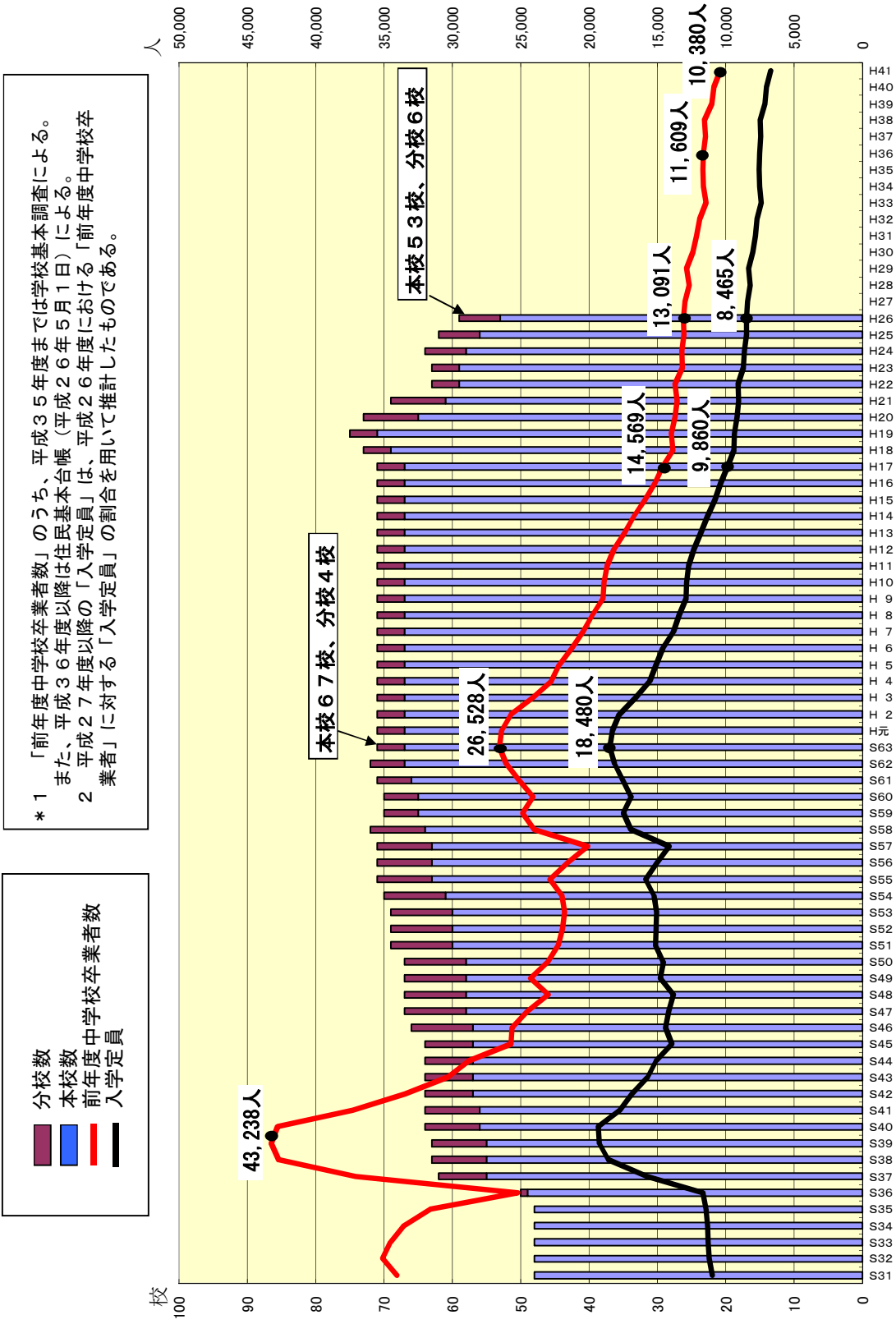
この「第2期県立高校将来構想」の推進にあたっては、職業や経験を通して培った専門的な知識や技能をもった地域の人材をはじめ、文化・スポーツにおける教育施設や自然環境など、地域の教育力を積極的に活用しながら、学校・家庭・地域が一体となって、教育活動の多様化とその質の向上に取り組めます。

2 実施計画の策定

この「第2期県立高校将来構想」は、平成27年度から平成36年度までの10年間の期間として、今後の県立高校の基本的な方向性を示したものであり、この構想を具体的に推進するにあたっては、年次的・計画的に進める必要があります。特に「学校・学科の再編整備」については、各学校の状況や本県の特徴等を踏まえながら、実施計画を策定し、着実に取り組めます。

附 属 資 料

本県の中学校卒業生数と公立高等学校全日制課程の入学定員・学校数の推移



* 1 「前年度中学校卒業生数」のうち、平成35年度までは学校基本調査による。
 また、平成36年度以降は住民基本台帳（平成26年5月1日）による。
 2 平成27年度以降の「入学定員」は、平成26年度における「前年度中学校卒業生」に対する「入学定員」の割合を用いて推計したものである。

■ 分校数
 ■ 本校数
 前年度中学校卒業生数
 入学定員

年 度	S 3 5	S 4 0	S 4 5	S 5 0	S 5 5	S 6 0	H 7	H 1 2	H 1 7	H 2 2	H 2 6	H 3 1	H 3 6	H 4 1
前年度中学校卒業生数	31,593	42,764	25,696	23,002	22,839	24,069	25,683	20,419	18,172	14,569	13,695	13,091	11,609	10,380
全日制課程の入学定員	11,435	19,305	13,950	14,545	15,855	16,875	17,775	13,805	12,325	9,860	9,070	8,465		
学校数(本校+分校)	48+0	56+8	57+7	58+9	63+8	65+5	67+4	67+4	67+4	67+4	59+4	53+6		

中学校卒業者の進路状況の推移

卒業年月	山口県			全 国		
	中学校 卒業生数	高等学校等進学者数 (%)	就職者数 (%)	中学校 卒業生数	高等学校等進学者数 (%)	就職者数 (%)
昭和35年3月	31,593	21,167 67.0	9,093 28.8	1,770,483	1,022,424 57.7	683,697 38.6
昭和40年3月	42,764	33,318 77.9	8,328 19.5	2,359,558	1,667,080 70.7	624,731 26.5
昭和45年3月	25,696	22,409 87.2	2,976 11.6	1,667,064	1,368,898 82.1	271,266 16.3
昭和50年3月	23,002	21,907 95.2	908 3.9	1,580,495	1,453,165 91.9	93,984 5.9
昭和55年3月	22,839	22,081 96.7	388 1.7	1,723,025	1,623,759 94.2	44,400 2.6
昭和60年3月	24,069	23,110 96.0	491 2.0	1,882,034	1,771,644 94.1	49,802 2.6
平成2年3月	25,683	24,805 96.6	393 1.5	1,981,503	1,884,183 95.1	39,895 2.0
平成7年3月	20,419	19,872 97.3	223 1.1	1,622,198	1,568,266 96.7	20,342 1.3
平成12年3月	18,172	17,672 97.2	174 1.0	1,464,760	1,420,715 97.0	13,047 0.9
平成17年3月	14,569	14,199 97.5	94 0.6	1,236,363	1,207,162 97.6	7,892 0.6
平成22年3月	13,695	13,346 97.5	39 0.3	1,227,736	1,203,618 98.0	4,979 0.4
平成23年3月	13,160	12,797 97.2	55 0.4	1,176,923	1,156,158 98.2	4,106 0.3
平成24年3月	13,215	12,905 97.7	71 0.5	1,195,204	1,174,596 98.3	4,409 0.4
平成25年3月	13,030	12,729 97.7	91 0.7	1,185,054	1,165,730 98.4	4,155 0.4
平成26年3月	12,985	12,674 97.6	111 0.9	1,192,990	1,173,998 98.4	4,341 0.4

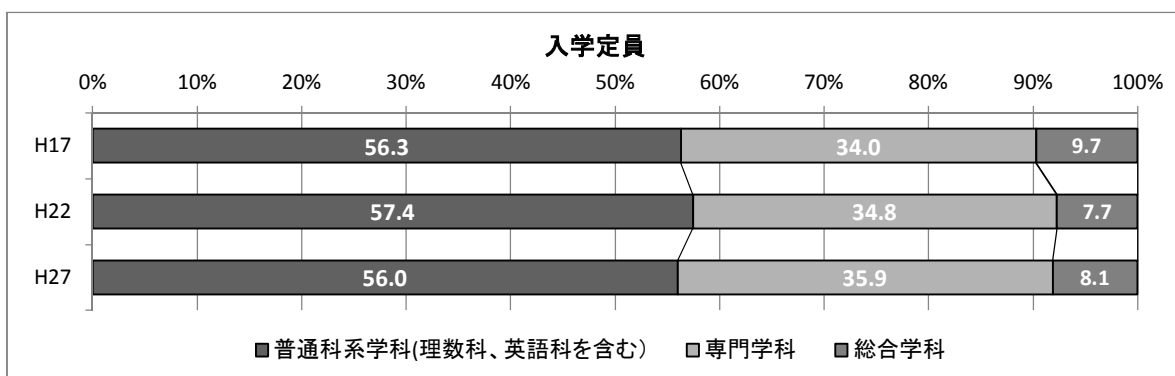
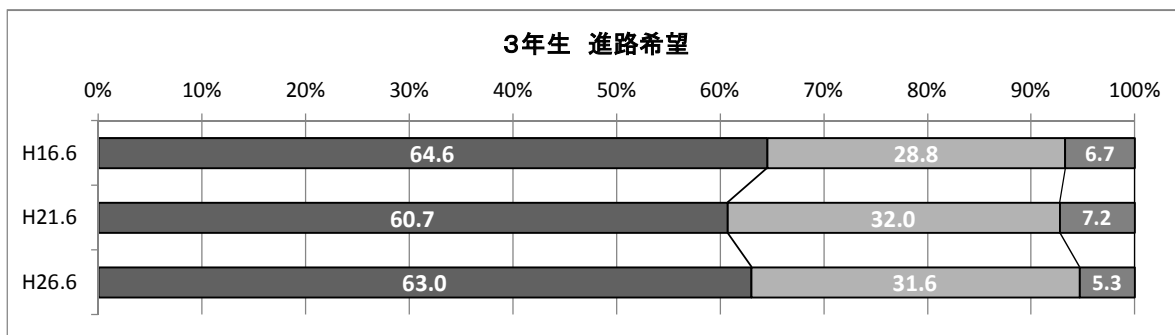
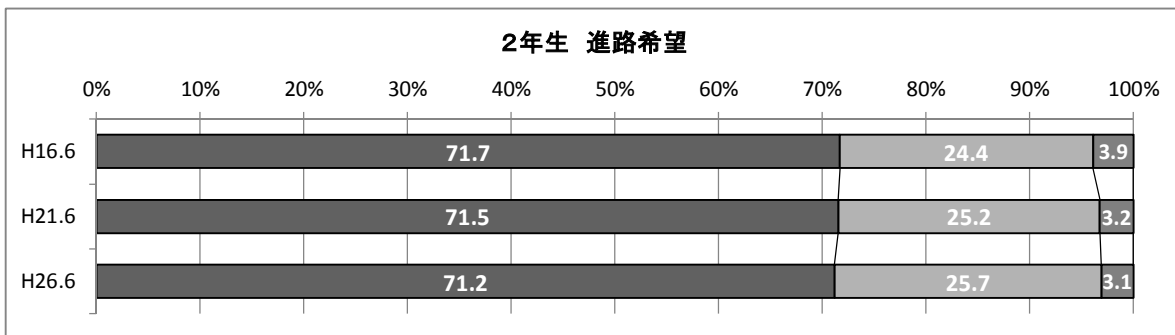
「学校基本調査」から作成

(注) 「高等学校等進学者」とは、高等学校の全日制、定時制及び通信制、中等教育学校後期課程、高等専門学校、特別支援学校高等部へ進学した者をいう。また、進学して同時に就職した者を含む。

市町立中学校2・3年生の公立高校(全日制課程)学科別希望状況の推移及び入学定員

実施時期	対象学年等	学科別希望状況										計
		普通科系	農業	水産	工業	商業	家庭	看護	その他	総合		
H16.6	中学2年生	人数	7,243	149	53	1,081	561	175	238	204	399	10,103
		%	71.7	1.5	0.5	10.7	5.6	1.7	2.4	2.0	3.9	100.0
	中学3年生	人数	7,473	215	70	1,600	924	193	159	161	770	11,565
		%	64.6	1.9	0.6	13.8	8.0	1.7	1.4	1.4	6.7	100.0
	H17 入学定員	人数	5,555	460	60	1,535	1,025	190	40	35	960	9,860
		%	56.3	4.7	0.6	15.6	10.4	1.9	0.4	0.4	9.7	100.0
H21.6	中学2年生	人数	6,887	169	41	1,160	559	171	219	109	311	9,626
		%	71.5	1.8	0.4	12.1	5.8	1.8	2.3	1.1	3.2	100.0
	中学3年生	人数	6,527	343	30	1,698	1,018	175	111	70	778	10,750
		%	60.7	3.2	0.3	15.8	9.5	1.6	1.0	0.7	7.2	100.0
	H22 入学定員	人数	5,210	405	60	1,505	1,000	115	40	35	700	9,070
		%	57.4	4.5	0.7	16.6	11.0	1.3	0.4	0.4	7.7	100.0
H26.6	中学2年生	人数	6,611	227	65	1,012	557	178	346	7	287	9,290
		%	71.2	2.4	0.7	10.9	6.0	1.9	3.7	0.1	3.1	100.0
	中学3年生	人数	6,269	246	56	1,512	862	191	254	27	530	9,947
		%	63.0	2.5	0.6	15.2	8.7	1.9	2.6	0.3	5.3	100.0
	H27 入学定員	人数	4,685	385	60	1,420	940	120	40	40	680	8,370
		%	56.0	4.6	0.7	17.0	11.2	1.4	0.5	0.5	8.1	100.0

※ 入学定員には、中等教育学校（120人）を含む。 高校教育課調べ
 ※ 普通科系には、普通科コース、理数科、英語科を含む。
 ※ その他は、H16.6及びH21.6にあつては福祉科、H26.6にあつては地域創生科



平成26年度 市町立中学校2・3年生の進路希望調査集計結果

調査実施時期：H26.6

地域	学年	生徒数 (5.1)	調査 回答者数	公立全日制													小計	就職	未定	総計									
				普通科系	普通科	普通科コース	理数科	英語科	農業科	水産科	工業科	商業科	家庭科	看護科	地域創生科	総合学科					計								
岩国	2年生	1,265	1,210	600	518	22	38	22	15	4	151	95	1	24	2	86	978	17	2	21	4	35	1	5	40	106	13	94	1,210
	%		95.7	49.6	42.8	1.8	3.1	1.8	1.2	0.3	12.5	7.9	0.1	2.0	0.2	7.1	80.8	1.4	0.2	1.7	0.3	2.9	0.1	0.4	3.3	8.8	1.1	7.8	
柳井	3年生	1,302	1,257	628	580	5	31	12	17	4	154	113	4	13	7	120	1,060	21	2	14	3	54	1	0	52	124	6	44	1,257
	%		96.5	50.0	46.1	0.4	2.5	1.0	1.4	0.3	12.3	9.0	0.3	1.0	0.6	9.5	84.3	1.7	0.2	1.1	0.2	4.3	0.1	0.0	4.1	9.9	0.5	3.5	
周南	2年生	624	604	328	305	8	12	3	29	5	50	25	3	15	4	5	464	4	0	17	0	18	3	1	14	53	6	77	604
	%		96.8	54.3	50.5	1.3	2.0	0.5	4.8	0.8	8.3	4.1	0.5	2.5	0.7	0.8	76.8	0.7	0.0	2.8	0.0	3.0	0.5	0.2	2.3	8.8	1.0	12.7	
周南	3年生	629	597	310	296	2	7	5	33	3	79	51	5	17	9	9	516	4	0	14	1	36	2	0	11	64	1	12	597
	%		94.9	51.9	49.6	0.3	1.2	0.8	5.5	0.5	13.2	8.5	0.8	2.8	1.5	1.5	86.4	0.7	0.0	2.3	0.2	6.0	0.3	0.0	1.8	10.7	0.2	2.0	
周南	2年生	2,221	2,125	1,271	1,122	45	65	39	41	8	230	81	36	64	0	50	1,781	21	1	29	1	99	10	4	26	169	14	139	2,125
	%		95.7	59.8	52.8	2.1	3.1	1.8	1.9	0.4	10.8	3.8	1.7	3.0	0.0	2.4	83.8	1.0	0.0	1.4	0.0	4.7	0.5	0.2	1.2	8.0	0.7	6.5	
周南	3年生	2,282	2,196	1,251	1,154	11	35	51	54	4	320	109	29	42	3	83	1,895	25	2	48	3	105	10	2	35	203	17	54	2,196
	%		96.2	57.0	52.6	0.5	1.6	2.3	2.5	0.2	14.6	5.0	1.3	1.9	0.1	3.8	86.3	1.1	0.1	2.2	0.1	4.8	0.5	0.1	1.6	9.2	0.8	2.5	
周南	2年生	2,774	2,632	1,620	1,463	82	55	20	61	6	146	110	45	108	0	64	2,160	43	9	70	1	46	7	8	40	172	30	218	2,632
	%		94.9	61.6	55.6	3.1	2.1	0.8	2.3	0.2	5.5	4.2	1.7	4.1	0.0	2.4	82.1	1.6	0.3	2.7	0.0	1.7	0.3	0.3	1.5	6.5	1.1	8.3	
周南	3年生	2,676	2,550	1,447	1,380	39	21	7	84	6	189	215	40	89	5	136	2,211	16	0	120	3	77	6	2	43	251	12	60	2,550
	%		95.3	56.7	54.1	1.5	0.8	0.3	3.3	0.2	7.4	8.4	1.6	3.5	0.2	5.3	86.7	0.6	0.0	4.7	0.1	3.0	0.2	0.1	1.7	9.8	0.5	2.4	
厚狭	2年生	2,251	2,169	1,259	1,127	54	64	14	21	6	221	66	56	58	0	40	1,727	27	2	66	2	92	12	6	35	213	9	191	2,169
	%		96.4	58.0	52.0	2.5	3.0	0.6	1.0	0.3	10.2	3.0	2.6	2.7	0.0	1.8	79.6	1.2	0.1	3.0	0.1	4.2	0.6	0.3	1.6	9.8	0.4	8.8	
厚狭	3年生	2,253	2,164	1,110	1,047	23	36	4	15	4	334	120	54	42	2	70	1,751	25	2	119	3	140	17	3	18	300	18	68	2,164
	%		96.0	51.3	48.4	1.1	1.7	0.2	0.7	0.2	15.4	5.5	2.5	1.9	0.1	3.2	80.9	1.2	0.1	5.5	0.1	6.5	0.8	0.1	0.8	13.9	0.8	3.1	
厚狭	2年生	2,075	1,974	1,176	1,054	55	59	8	39	13	177	140	30	61	1	40	1,677	26	6	19	0	29	16	5	30	99	9	157	1,974
	%		95.1	59.6	53.4	2.8	3.0	0.4	2.0	0.7	9.0	7.1	1.5	3.1	0.1	2.0	85.0	1.3	0.3	1.0	0.0	1.5	0.8	0.3	1.5	5.0	0.5	8.0	
厚狭	3年生	2,253	2,129	1,145	1,087	18	37	3	23	12	359	175	38	42	0	111	1,905	19	1	57	0	35	15	11	32	150	7	47	2,129
	%		94.5	53.8	51.1	0.8	1.7	0.1	1.1	0.6	16.9	8.2	1.8	2.0	0.0	5.2	89.5	0.9	0.0	2.7	0.0	1.6	0.7	0.5	1.5	7.0	0.3	2.2	
厚狭	2年生	644	631	357	295	22	36	4	21	23	37	40	7	16	0	2	503	3	1	23	1	10	3	0	30	67	5	52	631
	%		98.0	56.6	46.8	3.5	5.7	0.6	3.3	3.6	5.9	6.3	1.1	2.5	0.0	0.3	79.7	0.5	0.2	3.6	0.2	1.6	0.5	0.0	4.8	10.6	0.8	8.2	
厚狭	3年生	750	733	378	333	11	32	2	20	23	77	79	21	9	1	1	609	4	0	47	2	9	1	2	35	96	6	18	733
	%		97.7	51.6	45.4	1.5	4.4	0.3	2.7	3.1	10.5	10.8	2.9	1.2	0.1	0.1	83.1	0.5	0.0	6.4	0.3	1.2	0.1	0.3	4.8	13.1	0.8	2.5	
厚狭	2年生	11,854	11,345	6,611	5,884	288	329	110	227	65	1,012	557	178	346	7	287	9,290	141	21	245	9	329	52	29	215	879	86	928	11,345
	%		95.7	58.3	51.9	2.5	2.9	1.0	2.0	0.6	8.9	4.9	1.6	3.0	0.1	2.5	81.9	1.2	0.2	2.2	0.1	2.9	0.5	0.3	1.9	7.7	0.8	8.2	
厚狭	3年生	12,145	11,626	6,269	5,877	109	199	84	246	56	1,512	862	191	254	27	530	9,947	114	7	419	15	456	52	20	226	1,188	67	303	11,626
	%		95.7	53.9	50.6	0.9	1.7	0.7	2.1	0.5	13.0	7.4	1.6	2.2	0.2	4.6	85.6	1.0	0.1	3.6	0.1	3.9	0.4	0.2	1.9	10.2	0.6	2.6	

公立高等学校等課程別・学科別配置一覧（平成27年度募集）

【全日制課程】

学科	地区	岩国	柳井	周南	防府	厚狭	下関	萩	学校数
普通科のみ		高森 岩国・坂上 岩国・広瀬	柳井 熊毛南	光下 松新 南陽 徳山・徳山北 徳山・鹿野	山口中央 防府・佐波 山口・徳佐	宇部中央 小野田	豊浦 下関南 響豊北 下関中等		20
農業科のみ					山口農				1
工業科のみ		岩国工		下松工 南陽工		宇部工 小野田工	下関中央工業 下関工		7
商業科のみ		岩国商				宇部商	下関商		3
総合学科のみ		岩国総合		光丘	防府西	宇部西	長府		5
普通科+農業科							西市	奈古	2
普通科+農・水産科								大津緑洋	1
普通科+工業科						美祢青嶺			1
普通科+商業科					西京				1
普通科+家庭科				熊毛北		厚狭	田部		3
普通科+看護科					防府				1
普通科+理数科	岩国		徳山	山口	宇部	下関西	萩		6
普通科+英語科			華陵						1
普通科+地域創生科			周防大島						1
農業科+工業科			田布施農工						1
工業科+商業科			柳井商工	徳山商工	防府商工			萩商工	4
学校数		7	5	12	9	9	12	4	58

(注1) 学校数58校のうち、本校は52校、分校は6校である。

(注2) 西京高校には、普通科コース（体育コース）を設置している。

※ 大学科別募集校数…普通科：37校、農業科：5校、工業科：13校、商業科：8校、家庭科：3校、看護科：1校、理数科：6校、英語科：1校、地域創生科：1校、総合学科：5校

【定時制課程】

地区	岩国	柳井	周南	防府	厚狭	下関	萩	校数
設置学科								
普通科のみ	岩国商・東		光徳山	防府商工 山口	宇部中央 小野田	下関西		8
工業科のみ			下松工		宇部工 小野田工	下関工		4
商業科のみ					厚狭	下関商		2

【通信制課程】

地区	岩国	柳井	周南	防府	厚狭	下関	萩	校数
設置学科								
普通科+看護科				山口				1

【参考】新しいタイプの学校の設置状況

地区	岩国	柳井	周南	防府	厚狭	下関	萩
中高一貫	高森 (15) [併設型]	周防大島 (19) [連携型]				下関中等 (16) [中等教育]	
全日制単位制	岩国 (11) 高森 (17)	熊毛南 (14) 周防大島 (19) 柳井 (25)	徳山 (27) 新南陽 (14)		宇部 (27) 宇部中央 (14) 美祢青嶺 (25)	下関南 (15) 下関中等 (16) 豊浦 (19) 下関西 (21)	萩 (14) 大津緑洋 (23)
総合学科	岩国総合 (12)		光丘 (13)	防府西 (15)	宇部西 (10)	長府 (15)	

学科別在籍比率(公立・全日制)の推移

(%)

年度	山口県											全国																			
	普通科						専門学科					総合学科						専門学科					総合学科								
	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	計	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	計	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	計	
S45	56.3	6.5	19.1	11.5	1.5	4.4			0.7	43.7											57.8	7.4	13.5	14.8	0.7	5.1				0.7	42.2
S50	56.4	6.2	19.2	11.4	1.4	3.5		1.9	43.6												60.9	6.5	12.6	13.8	0.7	4.5				1.0	39.1
S55	59.4	5.4	18.1	10.9	1.1	3.3		1.8	40.6												67.2	5.3	10.8	11.8	0.5	3.5				0.9	32.8
S60	62.5	4.8	17.2	10.1	1.0	2.7		1.7	37.5												71.6	4.2	9.6	10.5	0.5	2.7				0.9	28.4
H 2	65.8	4.6	16.0	9.4	0.6	2.0		1.6	34.2												73.1	3.9	9.1	10.0	0.4	2.4				1.1	26.9
H 7	64.1	5.3	15.9	10.5	0.4	1.6		2.2	35.9												71.7	4.1	9.9	9.9	0.4	1.9				1.9	28.1
H12	61.5	4.6	15.8	10.8	0.5	1.9		2.5	36.1												69.5	4.0	10.0	9.4	0.4	1.6				2.8	28.2
H17	52.5	4.5	15.9	11.1	0.6	1.9	0.4	3.1	37.8												67.3	3.9	10.0	8.7	0.4	1.4	0.2	0.1	0.2	3.0	27.8
H22	53.3	4.4	17.0	11.4	0.5	1.3	0.5	3.2	38.6												66.3	3.8	9.7	8.0	0.4	1.1	0.2	0.1	0.3	3.5	27.1
H23	53.0	4.5	17.1	11.5	0.4	1.3	0.5	3.2	38.8												66.3	3.8	9.7	7.9	0.4	1.1	0.2	0.1	0.3	3.5	27.0
H24	52.5	4.6	17.3	11.5	0.5	1.3	0.5	3.3	39.2												66.2	3.8	9.7	7.9	0.4	1.1	0.2	0.1	0.3	3.6	27.0
H25	52.0	4.5	17.3	11.6	0.6	1.4	0.5	3.3	39.5												66.0	3.8	9.8	7.8	0.4	1.1	0.2	0.1	0.3	3.7	27.1
H26	51.7	4.6	17.4	11.6	0.6	1.4	0.5	3.5	39.7												66.1	3.7	9.7	7.7	0.4	1.1	0.2	0.1	0.3	3.7	27.0

「学校基本調査報告書」(文部科学省)から作成

平成27年度 山口県公立高等学校入学定員

全 日 制

岩国地域

学校名	学 科	定 員	増減
岩 国	普 通	240	
	理 数	40	
坂上分校	普 通	30	△10
広瀬分校	普 通	30	
岩国総合	総合学科	120	△20
高 森	普 通	120	(注1)
岩国商業	総合ビジネス	80	
	国際情報	40	
岩国工業	機 械	35	
	電 気	35	
	都市工学	35	
	システム化学	35	

柳井地域

学校名	学 科	定 員	増減
周防大島	普 通	75	△5
	地域創生	40	
柳 井	普 通	150	△10
柳井商工	ビジネス情報	70	△10
	機 械	35	△5
	建築・電子	35	△5
熊 毛 南	普 通	105	
田布施農工	生物生産	35	△5
	食品科学	35	△5
	環境土木	35	△5
	機械制御	40	

周南地域

学校名	学 科	定 員	増減
光	普 通	140	△20
光 丘	総合学科	120	
下 松	普 通	200	20
	英 語	40	
下松工業	システム機械	40	
	電子機械	40	
	情報電子	40	
	化学工業	40	
	普 通	40	
熊 毛 北	ライフデザイン	40	
	普 通	40	
徳 山	普 通	280	
	理 数	40	
徳山北分校	普 通	40	
鹿野分校	普 通	30	
新南陽	普 通	160	
徳山商工	総合ビジネス	40	
	情報ビジネス	40	
	機 械	40	
	電子情報技術	40	
	環境システム	40	
	機械システム	40	
南陽工業	電 気	40	
	応 用 化 学	40	

防府地域

学校名	学 科	定 員	増減
防 府	普 通	240	
	衛生看護	40	
佐波分校	普 通	40	
防府西	総合学科	140	△20
防府商工	商 業	120	
	情報処理	40	
	機 械	80	
山 口	普 通	280	
	理 数	40	
徳佐分校	普 通	40	
山口中央	普 通	200	
西 京	普 通	120	
	〃 体育コース	40	
	総合ビジネス	40	
	情報処理	40	
山口農業	生物生産	40	
	食品工学	40	
	生活科学	40	
	環境科学	40	

厚狭地域

学校名	学 科	定 員	増減
宇 部	普 通	200	
	理 数	40	
宇部中央	普 通	160	
宇部西	総合学科	160	
宇部商業	商 業	120	
	情報利用技術	—	△40
	総合情報	40	40
宇部工業	機 械	40	
	電子機械	40	
	電 気	40	
	化学工業	40	
小野田	普 通	160	
厚 狭	普 通	105	△15
	総合家庭	40	
小野田工業	機 械	40	
	情報科学	40	
	化学工業	40	
美祢青嶺	普 通	70	△10
	機 械	30	△10
	電 気	30	△10

下関地域

学校名	学 科	定 員	増減
田 部	普 通	40	
	総合生活	40	
西 市	普 通	30	
	生産流通	30	
	普 通	200	20
豊 浦	普 通	200	20
長 府	総合学科	140	20
下関西	普 通	200	
	理 数	40	
下関南	普 通	160	

学校名	学 科	定 員	増減
響	普 通	80	10
豊 北	普 通	60	
下関中央工業	機械・造船	35	140 (注2)
	建 築	35	
	土 木	35	
	化学工業	35	
下関工業	機 械	70	
	電 気	35	
	電 子	35	
下関商業	商 業	170	
	情報処理	30	

萩地域

学校名	学 科	定 員	増減
大津緑洋	普 通	120	
	生物生産	30	
	生活科学	30	
	海洋技術	30	
	海洋科学	30	
	普 通	120	
萩 商 工	理 数	30	
	総合ビジネス	35	
	情報デザイン	35	
	機械・土木	35	
奈 古	電 気・建築	35	
	普 通	30	
奈 古	生物資源科学	30	
	普 通	30	

全 日 制	計	8,370	△95
-------	---	-------	-----

(△は減を示す)

定 時 制

学校名	学 科	定 員	増減
岩国商業 (東分校)	普通・昼	40	
	〃・夜	40	
光	普通・夜	40	
下松工業	機械・夜	40	
徳 山	普通・夜	40	
防府商工	普通・夜	40	
山 口	普通・夜	40	
宇部中央	普通・夜	40	
宇部工業	機械・夜	40	
小野田	普通・夜	40	
厚 狭	商業・夜	40	
小野田工業	機械・夜	40	
下関西	普通・夜	40	
下関工業	機械・夜	40	
下関商業	商業・夜	40	
定 時 制	計	600	

通 信 制

学校名	学 科	定 員	増減
山 口	普 通	360	
	衛生看護	40	

注1: 高森高校の定員は120人ですが、募集人員は、高森高校と中高一貫教育を実施している高森みどり中学校(1学年40人)からの入学者数を差し引いた人数となります。

注2: 下関中央工業高校については、各学科を一括して募集(くくり募集)します。

公立高等学校等の地区別・募集学級数別配置状況（平成27年度募集）

全日制課程

区分	岩国	柳井	周南	防府	厚狭	下関	萩	合計	
1学級	岩国坂上 岩国広瀬		徳山徳山北 徳山鹿野	防府佐波 山口徳佐				6	
2学級			熊毛北			田部 西市 響 豊北	奈古	6	
3学級	岩国総合 高森 岩国商業	周防大島 熊毛南	光丘 華陵 南陽工業		小野田工業	下関中等		10	
4学級	岩国工業	柳井 柳井商工 田布施農工	光 下松工業 新南陽	防府西 山口農業	宇部中央 宇部西 宇部商業 宇部工業 小野田 厚狭 美祢青嶺	長府 下関南 下関中央工業 下関工業	萩 萩商工	22	
5学級			徳山商工 下松	山口中央		豊浦		4	
6学級				防府商工 西京	宇部	下関西 下関商業		5	
7学級	岩国			防府			大津緑洋	3	
8学級			徳山	山口				2	
9学級									
合計	本校	5	5	10	7	9	12	4	52
	分校	2		2	2				6

定時制課程

区分	岩国	柳井	周南	防府	厚狭	下関	萩	合計
1学級			光 下松工業 徳山	防府商工 山口	宇部中央 宇部工業 小野田 厚狭 小野田工業	下関西 下関工業 下関商業		13
2学級	岩国商業 (昼夜)							1
合計	本校		3	2	5	3		13
	分校	1						1

平成26年度 第1学年の学級数別学校数

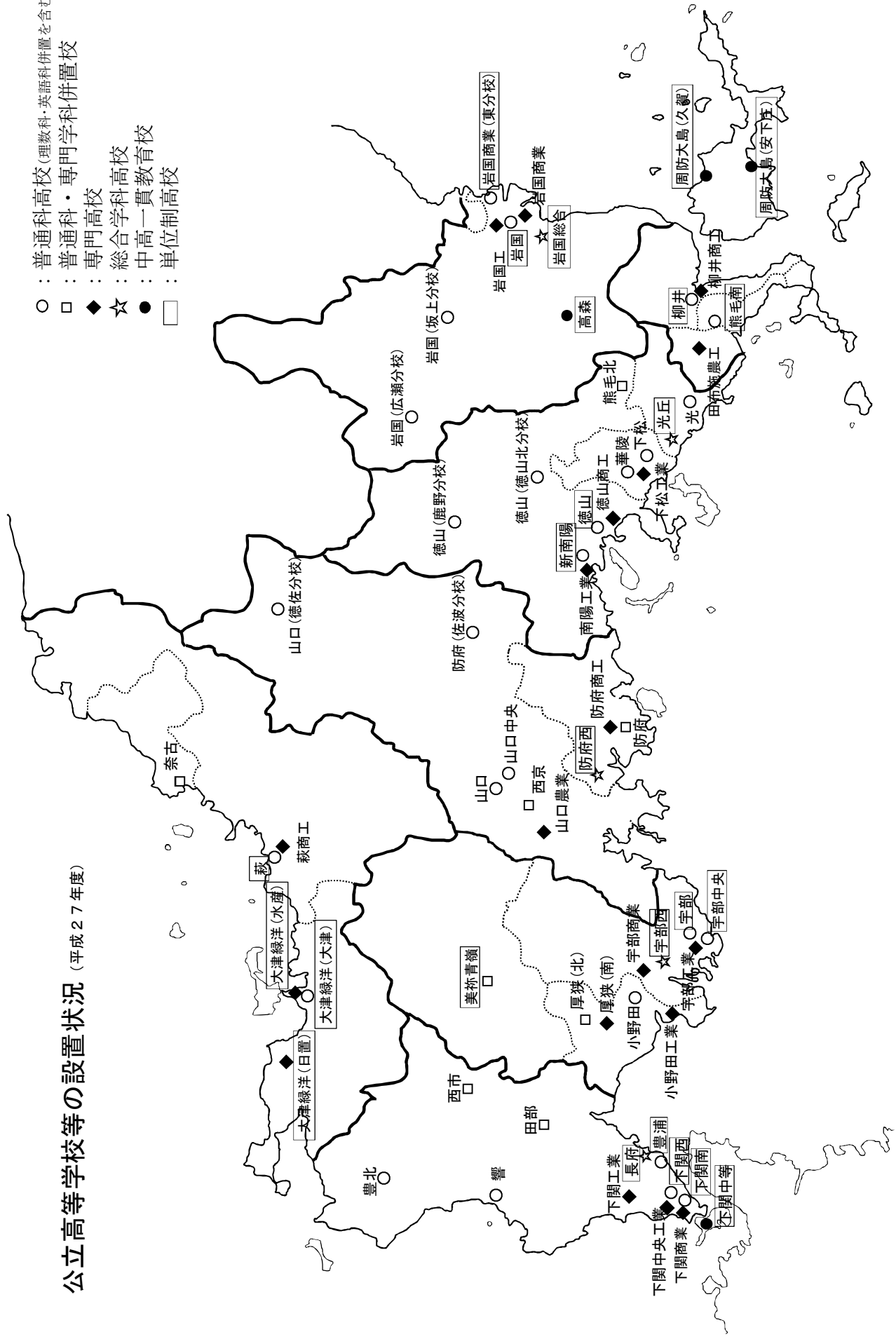
(都道府県立高校の本校)

	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	11学級	12学級	13学級	14学級	15学級～	全学校数	全クラス数	1校平均
北海道	36	42	11	39	14	22	11	26	1							202	805	3.99
青森県	1	13	1	9	8	14	7									53	239	4.51
岩手県	3	14	10	6	14	11	5									63	256	4.06
宮城県		5	11	8	11	11	16	4		1						67	350	5.22
秋田県		6	10	8	8	13	2									47	206	4.38
山形県	2	3	10	6	11	5	4				1					42	186	4.43
福島県	3	18	11	6	10	17	12	6								83	380	4.58
茨城県		1	8	18	18	19	18	10								92	508	5.52
栃木県				14	22	15	6	2								59	314	5.32
群馬県		9	5	11	12	10	7	7								61	302	4.95
埼玉県		1	3	5	12	40	18	24	25	5					1	134	944	7.04
千葉県		3	5	22	11	20	10	32	19						1	123	800	6.50
東京都	3	7	1	6	23	54	36	36	7							173	1,086	6.28
神奈川県				3	6	33	42	22	26	7						139	1,014	7.29
新潟県	1	11	8	17	14	9	8	10	3	1						82	412	5.02
富山県			6	13	6	5	6	1								37	180	4.86
石川県		5	5	6	6	5	2	5	2	2						38	201	5.29
福井県				6	7	4	1	3	4	1						26	160	6.15
山梨県			2	2	4	9	8	2								27	160	5.93
長野県		5	17	11	8	19	12	6	1							79	400	5.06
岐阜県		1	7	10	8	10	9	8	4	4						61	366	6.00
静岡県		4	5	8	16	24	12	9	5	4						87	520	5.98
愛知県		3	4	5	13	28	24	30	30	9						146	1,039	7.12
三重県	1	3	5	2	10	5	13	11	4							54	325	6.02
滋賀県		1	5	8	4	14	7	2	2	2	1					46	267	5.80
京都府			6	2	8	8	6	8	7	1						46	293	6.37
大阪府		1			5	26	27	36	33	8						136	1,037	7.63
兵庫県	4	6	11	3	14	30	26	25	7	1						127	766	6.03
奈良県		1	4	1		10	3	6	3	4						32	214	6.69
和歌山県			2	5	5	7	3	5	1	1		1				30	185	6.17
鳥取県		1	4	4	8		2	3								22	108	4.91
島根県	1	6	8	9	3	3	1	3								34	137	4.03
岡山県				14	11	2	9	8	7							51	313	6.14
広島県	10	10	6	8	12	11	7	14								78	367	4.71
山口県		6	10	22	4	4	3	2								51	211	4.14
徳島県		3	3	1	7	7	2	6			1					30	169	5.63
香川県			3	7	5	5	5	6								31	175	5.65
愛媛県	1	10	10	7	3	4	7	5	5							52	252	4.85
高知県		10	2	8	3	3	4	1								31	127	4.10
福岡県			1	17	19	19	8	12	6	8	3					93	599	6.44
佐賀県		1	11	7	6	7	4									36	163	4.53
長崎県	4	6	8	12	6	6	9	3								54	241	4.46
熊本県		4	6	3	12	8	8	1	5	4						51	295	5.78
大分県	1	2	3	8	8	9	5	2								38	191	5.03
宮崎県			7	6	7	8	4	1		3						36	194	5.39
鹿児島県		11	14	12	4	4	3	11	1							60	274	4.57
沖縄県		4	4	3	8	10	9	10	5	5	1					59	381	6.46
全 国	71	237	273	408	434	607	451	424	213	71	7	1	0	0	2	3,199	18,112	5.66

(富山県教育委員会による全国調査集計より)

公立高等学校等の設置状況（平成27年度）

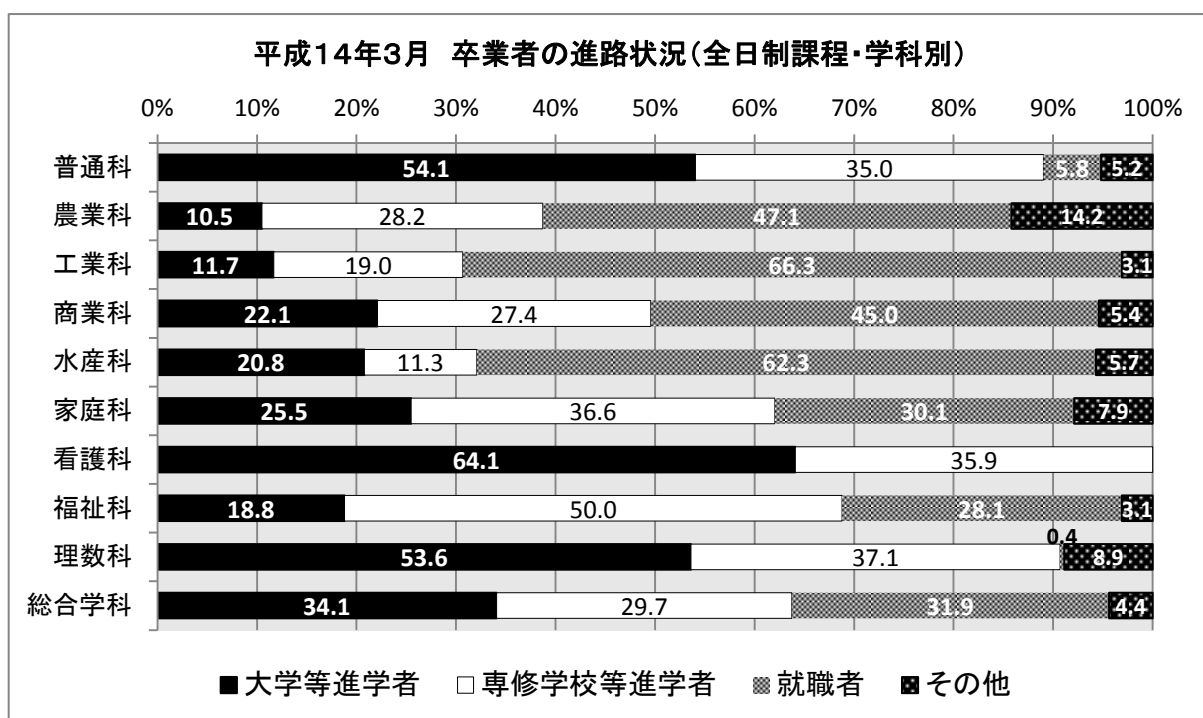
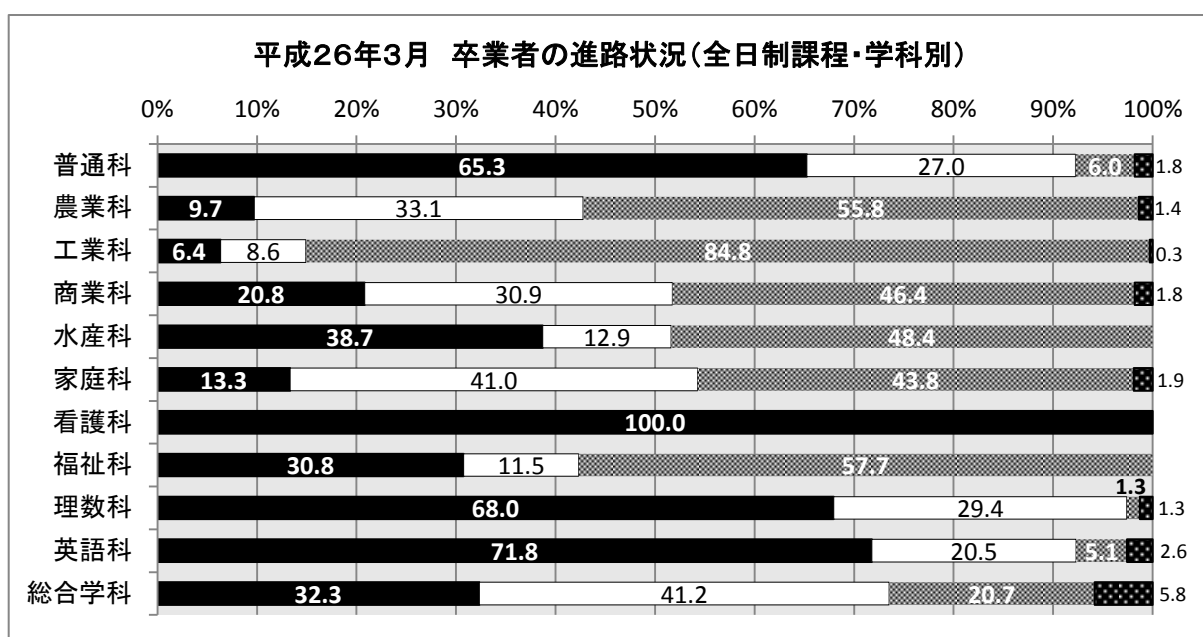
- ：普通科高校（理数科・英語科併置を含む）
- ：普通科・専門学科併置校
- ◆：専門高校
- ☆：総合学科高校
- ：中高一貫教育校
- ◻：単位制高校



山口県公立高等学校等卒業者の進路状況(全日制課程・学科別)

(平成26年3月卒業者)

区分	大学等進学者		専修学校等進学者		就職者		その他		合計 人数
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
普通科	2,848	65.3	1,177	27.0	260	6.0	79	1.8	4,364
農業科	35	9.7	119	33.1	201	55.8	5	1.4	360
工業科	87	6.4	117	8.6	1,160	84.8	4	0.3	1,368
商業科	196	20.8	291	30.9	437	46.4	17	1.8	941
水産科	12	38.7	4	12.9	15	48.4	0	0.0	31
家庭科	14	13.3	43	41.0	46	43.8	2	1.9	105
看護科	38	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	38
福祉科	8	30.8	3	11.5	15	57.7	0	0.0	26
理数科	157	68.0	68	29.4	3	1.3	3	1.3	231
英語科	28	71.8	8	20.5	2	5.1	1	2.6	39
総合学科	216	32.3	275	41.2	138	20.7	39	5.8	668
合計	3,639		2,105		2,277		150		8,171



高校教育課「卒業者等の進路状況調査」から作成

山口県公立高等学校全日制課程専門学科卒業者の進路状況

1 農業に関する学科 (%)

卒業年月	進 学 等										就職	その他	卒業 者数
	大学		短大		高等 学校	専修学校 各種学校等		合計	関連 計	他 計			
	関連	他	関連	他	専攻科	関連	他						
H16.3	1.6	1.6	2.2	5.0	0.0	7.6	26.6	44.6	11.4	33.2	51.6	3.8	497
H26.3	0.8	2.5	2.8	3.1	0.6	6.7	26.4	42.5	10.6	31.9	55.8	1.4	360

2 工業に関する学科 (%)

卒業年月	進 学 等										就職	その他	卒業 者数
	大学		短大		高等 学校	専修学校 各種学校等		合計	関連 計	他 計			
	関連	他	関連	他	専攻科	関連	他						
H16.3	6.7	4.1	0.9	1.5	0.0	8.7	11.5	33.4	16.3	17.1	63.9	2.7	1738
H26.3	2.9	2.6	0.4	0.5	0.0	3.0	5.6	14.9	6.3	8.6	84.8	0.3	1368

3 商業に関する学科 (%)

卒業年月	進 学 等										就職	その他	卒業 者数
	大学		短大		高等 学校	専修学校 各種学校等		合計	関連 計	他 計			
	関連	他	関連	他	専攻科	関連	他						
H16.3	9.3	3.7	0.5	7.6	0.0	8.6	22	51.7	18.4	33.3	45.4	2.9	1201
H26.3	10.2	4.1	0.2	6.2	0.1	7.8	23.2	51.8	18.3	33.5	46.4	1.8	941

4 水産に関する学科 (%)

卒業年月	進 学 等										就職	その他	卒業 者数
	大学		短大		高等 学校	専修学校 各種学校等		合計	関連 計	他 計			
	関連	他	関連	他	専攻科	関連	他						
H16.3	1.8	1.8	0.0	3.6	16.1	3.6	14.286	41.2	21.5	19.7	55.2	3.6	56
H26.3	3.2	3.2	0.0	0.0	32.3	9.7	3.2	51.6	45.2	6.5	48.4	0.0	31

5 家庭に関する学科 (%)

卒業年月	進 学 等										就職	その他	卒業 者数
	大学		短大		高等 学校	専修学校 各種学校等		合計	関連 計	他 計			
	関連	他	関連	他	専攻科	関連	他						
H16.3	0.9	0.5	19.4	2.3	0.0	14.7	11.5	49.3	35.0	14.3	44.2	6.5	217
H26.3	3.8	0.0	3.8	5.7	0.0	3.8	37.1	54.3	11.4	42.9	43.8	1.9	105

6 福祉に関する学科 (%)

卒業年月	進 学 等										就職	その他	卒業 者数
	大学		短大		高等 学校	専修学校 各種学校等		合計	関連 計	他 計			
	関連	他	関連	他	専攻科	関連	他						
H16.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	22.6	0.0	32.3	32.3	0	67.7	0.0	31
H26.3	3.8	3.8	0.0	23.1	0.0	11.5	0.0	42.3	15.4	26.9	57.7	0.0	26

7 看護に関する学科 (%)

卒業年月	進 学 等										就職	その他	卒業 者数
	大学		短大		高等 学校	専修学校 各種学校等		合計	関連 計	他 計			
	関連	他	関連	他	専攻科	関連	他						
H16.3	7.9	0.0	39.5	0.0	0.0	50.0	2.6	100	97.4	2.6	0.0	0.0	38
H26.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	38

※大学等進学者には、大学・短期大学別科、通信教育部及び放送大学を含む。
 ※大学進学等及び専修学校・各種学校等については進学して同時に就職した者を含む。
 ※就職には就職して同時に進学した者は含まない。

高校教育課「卒業者等の進路状況調査」から作成

全国の高校再編整備の状況

都道府県	再編整備 基本計画等	再編整備の内容(全日制)							最小規模 (1学年)
		再編整備 の基準	学科別 比率	適正規模(学級数)					
	策定年度			2~8	3~8	4~8	6~8	その他	
北海道	H18	○				○			1学級
青森	H20							・青森・弘前・八戸市: 6学級以上 ・その他:4学級以上	2学級
岩手	H21							4~6学級	
宮城	H22								2学級
秋田	H26	○				○			2学級
山形	H26	○				○			2学級
福島	H11	○	○普60:職30:総10			○			2学級
茨城	H21	○				○			2学級
栃木	H15		○普70:職30			○			
群馬	H22	○				○			2学級
埼玉	H22						○	専門学科:6学級	
千葉	H23					○(郡部)	○(都市部)		
東京	H14		○普124校:専38校:総10校			○		6学級を基本	
神奈川	H22						○		
新潟	H14		○普80%			○			
富山	H19	○	○普3~4%増			○		5~6学級を基本	
石川	H19	○				○			3学級
福井	H20					○			
山梨	H21	○				○		6学級を中心	
長野	H21	○		○				6学級を標準	
岐阜	H13					○			
静岡	H17		○普65:専25:総10				○		
愛知	H13	○					○		
三重	H24	○			○				3学級
滋賀	H24						○		
京都	H16							学年制:8学級 単位制:6学級	
大阪	H24						普:○		
兵庫	H19						普:○	総合学科:4学級 専門学科:3学級	
奈良	H15							原則8学級	
和歌山	H17	○				○			
鳥取	H24					○			
島根	H19	○				○			
岡山	H23		○普55:職40:総5			○			
広島	H25	○						・6学級が標準 ・中山間:2~6学級 ・その他:4~8学級	1学級
山口	H17	○	○普60%			○			2学級
徳島	H17								
香川	H21								
愛媛	H20	○	○普70:職30			○			2学級
高知	H25	○				○	○高知市と その周辺		2学級
福岡	H16						○		
佐賀	H26	○				○			2学級
長崎	H20	○				○			1学級
熊本	H19	○	○普59:専39:総2			○			
大分	H16	○					○	4~5学級も可	2学級
宮崎	H23					○			
鹿児島	H21	○				○			
沖縄	H23	○	○普60:専30:総10			○			
合計		24	11	1	1	28	11	12	

再編整備の状況

(1) これまでの経緯

年 度	対 象 校	再編整備の内容	新 高 校	設置学科	学級数	定 員	
平成18年度	柳井商業高校	再編統合	柳井商工高校	会計ビジネス	1	40	
	柳井工業高校			情報ビジネス	1	40	
				機械・制御	1	40	
					建築・情報	1	40
	平成18年度	徳山商業高校	再編統合	徳山商工高校	総合ビジネス	1	40
					情報ビジネス	1	40
		徳山工業高校			機械	1	40
					情報技術	1	40
					環境システム	1	40
平成18年度	萩商業高校	再編統合	萩商工高校	総合ビジネス	2	70	
				国際情報	1	35	
	萩工業高校			機械	1	35	
				電気	1	35	
				建設工学	1	35	
平成19年度	安下庄高校	再編統合	周防大島高校	安下庄校舎 普通	3	105	
	久賀高校			久賀校舎 福祉	1	35	
	大嶺高校	再編統合	青嶺高校	普通	2	70	
	美祢工業高校			機械	1	40	
			電気	1	40		
平成20年度	坂上高校	分校化	岩国高校坂上分校	普通	1	40	
	広瀬高校	分校化	岩国高校広瀬分校	普通	1	40	
	鹿野高校	分校化	徳山高校鹿野分校	普通	1	40	
	徳佐高校	分校化	山口高校徳佐分校	普通	1	40	
	熊毛南高校上関分校	募集停止	/				
	田布施農業高校大島分校	募集停止					
	徳佐高校高俣分校	募集停止					
	奈古高校須佐分校	募集停止					
平成22年度	田布施農業高校	再編統合	田布施農工高校	生物生産	1	40	
	田布施工業高校			食品科学	1	40	
				環境土木	1	40	
				機械制御	1	40	
平成23年度	大津高校	再編統合	大津緑洋高校	大津校舎 普通	3	120	
	日置農業高校			日置校舎 生物生産	1	30	
				生活科学	1	30	
	水産高校		水産校舎 海洋技術	1	30		
				海洋科学	1	30	
平成24年度	防府商業高校	工業科の設置	防府商工高校	商業	3	120	
				情報処理	1	40	
				機械	2	80	
	徳山北高校	分校化	徳山高校徳山北分校	普通	1	40	
	佐波高校	分校化	防府高校佐波分校	普通	1	40	
平成25年度	美祢高校	再編統合	美祢青嶺高校	普通	2	80	
	青嶺高校			機械	1	40	
				電気	1	40	

※「設置学科」「学級数」「定員」は、再編時のものです。

平成16年度募集

○学校数: 67校4分校
○1校当たりの平均学級数: 3. 83



平成26年度募集

○学校数: 51校6分校
○1校当たりの平均学級数: 4. 14

(2) 学習活動・部活動等の状況

高 校	概 要
柳井商工	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学・英語で習熟度別少人数指導の時間が増加 ⇒ 一層きめ細かな指導が可能 ○ 学科の枠を越えた科目選択が可能 ⇒ 商業科で「建築計画」「建築環境工学」、工業科で「マーケティング」「秘書事務」など ○ 学科の枠を越えた資格取得が可能 ⇒ 商業科で「危険物取扱者」、工業科で「ワープロ検定」「珠算・電卓検定」など ○ 部活動が活性化 ⇒ バドミントン（男子・女子）・少林寺拳法（女子）が全国総体出場 など
徳山商工	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通教科の選択科目が増加 ⇒ 生徒の進路希望（進学、就職）に対応した選択が可能 ○ 学科の枠を越えた科目選択が可能 ⇒ 商業科で「製図」、工業科で「簿記」など ○ 学科の枠を越えた資格取得が可能 ⇒ 商業科で「危険物取扱者」、工業科で「ワープロ検定」「簿記検定」など ○ 部活動が活性化 ⇒ 陸上競技（女子・個人）が全国総体出場、バレーボール（女子）が県総体3位 など
萩商工	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通教科の教員の増加 ⇒ 教科指導の研修による教員の資質向上 ⇒ 授業の質の一層の向上 ○ 学科の枠を越えた科目選択が可能 ⇒ 商業科で「社会基盤工学」、工業科で「文書デザイン」「観光一般」など ○ 学科の枠を越えた資格取得が可能 ⇒ 商業科で「危険物取扱者」、工業科で「ワープロ検定」「情報処理検定」など ○ 部活動が活性化 ⇒ ラグビー（男子）が全国大会出場、少林寺拳法（男子・女子）が全国総体出場 など
周防大島	<ul style="list-style-type: none"> ○ 〈普通科〉特別進学コース、普通コース、環境コースの3コースを設置 ⇒ 学習センターを設置し、衛星授業を活用するなど、個別指導を充実 ○ 〈地域創生科〉福祉コース、ビジネスコースの2コースを設置 ⇒ 福祉の心をもって、地域に貢献する人材の育成 ○ 部活動が活性化 ⇒ ボート（男子）が全国総体出場、アーチェリー（女子）が県総体2位 など
青嶺・美祢青嶺	<ul style="list-style-type: none"> ○ 〈普通科〉特別進学コース、進学コースの2コースを設置 ⇒ 生徒の多様な進路希望に応じたきめ細かな進学指導が可能 ○ 学科の枠を越えた科目選択が可能 ⇒ 普通科で「自動車工学」「情報技術基礎」、工業科で「数学A・B」など ○ 学科の枠を越えた資格取得が可能 ⇒ 普通科で「危険物取扱者」「ボイラー技士」「フォークリフト」など ○ 部活動が活性化 ⇒ ソフトテニス（男子・個人）が全国総体出場 など
田布施農工	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生は全員「産業基礎」を受講し、農業と工業の基礎分野を共通に学習 ⇒ 「ものづくり」という共通の視点から創造的に考える力を養成 ○ 学科の枠を越えた科目選択が可能 ⇒ 農業科で「社会基盤工学」「電子機械」、工業科で「植物バイオテクノロジー」など ○ 部活動が活性化 ⇒ レスリング（男子）・アーチェリー（男子）が全国総体出場 など
大津緑洋	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の推進 ⇒ 3キャンパス5学科の連携・協力により進学指導・専門教育が充実 ○ 学校行事が多彩で充実 ⇒ 3キャンパス合同の学習発表会を開催し、学科間の相互理解を促進 ○ 学科の枠を越えた資格取得が可能 ⇒ 農業科で「ガス溶接技能講習」「ボイラー技士」、水産科で「フォークリフト」など ○ 部活動が活性化 ⇒ ラグビー（男子）・ボート（女子）が県総体2位 など

※ 部活動の成績は、平成26年度のものです。

第 2 期 県立高校将来構想検討協議会委員

	氏 名	役 職 名 等
会 長	古賀 和利	国立大学法人山口大学理事・副学長
副会長	小野 英輔	サマンサジャパン株式会社代表取締役会長&CEO
委 員	岩城 精二	山口県都市教育長会会長 山口市教育委員会教育長
委 員	小川 二伸	山口県中学校長会会長 下関市立日新中学校長
委 員	奥野 忠	山口県立山口農業高等学校長
委 員	尾崎 龍彦	山口県町教育長会会長 田布施町教育委員会教育長
委 員	倉田 伸治	山口県公立高等学校長会副会長 山口県立柳井高等学校長
委 員	品川 豊勝	山口県立萩商工高等学校長
委 員	田中マキ子	公立大学法人山口県立大学大学院健康福祉学研究科科長
委 員	常森 慶子	海水化学工業株式会社マネージメントセクション経営企画室室長
委 員	寺本 隆宏	山口県公立高等学校PTA連合会会長 山口県立岩国高等学校PTA会長
委 員	中磯 和子	山口県PTA連合会前副会長 山口県立高森高等学校PTA会長
委 員	林 俊作	山口県PTA連合会会長 下関市日新中学校PTA会長
委 員	伴 浩一	山口県公立高等学校長会会長 山口県立山口高等学校長
委 員	山本 晃久	山口県小学校長会会長 山口市立大殿小学校長
委 員	山本 伸雄	山口県農業協同組合中央会会長

事務局

氏 名	役 職 名 等
原田 尚	山口県教育庁教育次長
小西 哲也	〃 教育次長
廣川 晋	〃 審議監
嘉村 靖	〃 教育政策課長
首藤 裕司	〃 教職員課長
清時 崇文	〃 義務教育課長
栗林 正和	〃 高校教育課長
藤村 恭久	〃 社会教育・文化財課長
高原 透	〃 人権教育課長
御神本 実	〃 学校安全・体育課長

第2期県立高校将来構想検討協議会設置要綱

(設置)

第1条 本県高校教育の将来構想の策定に当たり検討協議を行うため、「第2期県立高校将来構想検討協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、将来構想の検討に当たり、概ね次の事項について協議する。

- (1) 現行県立高校将来構想の検証に関すること
- (2) 今後の県立高校の在り方に関すること
- (3) 特色ある学校づくりの推進に関すること
- (4) 学校・学科の再編整備の推進に関すること
- (5) その他、高校教育等に関する重要事項

(委員の構成及び任期)

第3条 協議会の委員は16名程度とし、教育長が委嘱する。

2 委員の任期は、協議会の設置期間とし、委員に欠員を生じた場合は、教育長が後任者を委嘱する。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出し、副会長は会長が指名する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会は会長が招集し、議長は、会長がこれに当たる。

2 会長が必要と認めたときは、委員以外の者を協議会に出席させ、意見を求めることができる。

(部会)

第6条 協議会に部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長を置き、部会長は当該部会に属する委員の中から会長が指名する。

(意見聴取)

第7条 協議会は、必要があると認めるときは、関係者に意見を聴くための会を開くことができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、教育庁高校教育課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成26年7月25日から施行する。

第2期県立高校将来構想検討協議会の協議経過等

回	開催期日	協議内容等
県民 意識調査	平成26年 7月14～18日	高校教育に対するニーズ等 対象：中3～高2の生徒・保護者等（約8,700人）
第1回	8月5日	<ul style="list-style-type: none"> ○会長の選任 ○現将来構想・再編整備計画の実施状況について説明 ○第2期将来構想の策定について ○構想の期間、基本的な考え方について ○県立高校を取り巻く状況について ○県立高校の現状と課題について
第2回	9月2日	<ul style="list-style-type: none"> ○めざすべき県立高校像について ○教育活動の充実について ○教育環境の充実について
第3回	10月20日	<ul style="list-style-type: none"> ○県民意識調査（アンケート）結果について ○特色ある学校づくりについて
学校視察	10月31日 11月6日	県外の先進校を視察 視察校：広島県立広島高等学校 広島県立広島工業高等学校 岡山県立岡山芳泉高等学校
第4回	11月10日	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある学校づくりについて ○学校・学科の再編整備について ○将来構想の推進について
第5回	11月18日	○第2期県立高校将来構想（素案）について
パブリック・ コメント実施	平成27年 1月7日 ～ 2月6日	○第2期県立高校将来構想（素案）についての意見等
第6回	2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○パブリック・コメントの結果について ○第2期県立高校将来構想（案）の検討

「高校教育に関するアンケート」の結果

問1 あなたが、現在、居住している市町はどこですか。

(人)

	岩国地域	柳井地域	周南地域	山口地域	宇部地域	下関地域	萩地域	合計
中3生徒	269	128	445	519	447	423	193	2424
高1生徒	149	89	254	269	242	266	90	1359
高2生徒	133	78	254	245	211	274	94	1289
中3保護者	178	83	295	360	283	282	125	1606
高1保護者	97	60	172	181	147	169	62	888
高2保護者	85	48	170	160	142	179	61	845
合計	911	486	1590	1734	1472	1593	625	8411

問2 あなた（あなたのお子さん）が所属する学年（年次）及びその学年（年次）全体の学級数について選んでください。

(人)

	1年3学級以下	1年4学級以上	2年3学級以下	2年4学級以上	合計
高1生徒	487	872	—	—	1359
高2生徒	—	—	436	853	1289
高1保護者	299	589	—	—	888
高2保護者	—	—	260	585	845
合計	786	1461	696	1438	4381

問3 あなた（あなたのお子さん）は、現在どの学科で学んで（どの学科を第一希望として）いますか。

(人)

	普通科	理数科	英語科	農業系	工業系	商業系	水産系	家庭科系	衛生看護科	福祉系	地域創生科	総合学科	未定	その他	合計
中3生徒	1272	54	20	73	391	185	14	47	70	33	4	116	91	54	2424
高1生徒	720	38	6	51	230	152	13	23	7	2	6	112	—	—	1360
高2生徒	665	50	7	56	218	146	11	27	6	7	0	97	—	—	1290
中3保護者	914	42	12	30	250	163	8	26	23	15	0	57	47	18	1605
高1保護者	470	23	5	44	143	99	7	13	4	0	4	74	—	—	886
高2保護者	434	41	4	31	145	100	6	13	4	4	0	62	—	—	844
合計	4475	248	54	285	1377	845	59	149	114	61	14	518	138	72	8409

問4 あなた（あなたのお子さん）は、高校進学時、現在在学している学校及び学科を第一希望としていましたか。

- ①学校も学科も第一希望としていた
- ②学校は第一希望としていたが、学科は第一希望としていなかった
- ③学校は第一希望としていなかったが、学科は第一希望の学科としていた
- ④学校も学科も第一希望としてはいなかった

(人)

	①	②	③	④	合計
高1生徒	1202	45	60	51	1358
高2生徒	1119	48	55	68	1290
高1保護者	789	20	26	41	876
高2保護者	749	29	26	30	834
合計	3859	142	167	190	4358

問5 あなた（あなたのお子さん）は、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。

- ①大学・短大への進学
②専門学校への進学
③就職
④まだ決めていない

(人)

	①	②	③	④	合計
中学生	957	332	485	649	2423
高1生徒	663	186	311	195	1355
高2生徒	622	184	340	143	1289
中学保護者	733	150	274	449	1606
高1保護者	432	113	199	132	876
高2保護者	427	108	202	97	834
合計	3834	1073	1811	1665	8383

問6 あなたは、高校を選ぶ際（お子さんの高校進学の際）、どのような点を重視しましたか（しますか）。（3つまで選択）

- ①学校の校風やイメージ
②設置されている学科・コース
③学校の授業内容
④学校の施設・設備
⑤通学の便利さ
⑥本人の能力・適性
⑦将来の進路希望
⑧部活動の状況
⑨先生や家族など周囲の人の意見
⑩高校からの大学等への進学実績や就職実績
⑪特にない

(人)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	合計
中学生	879	1001	471	382	543	1033	1092	676	379	479	109	7044
高1生徒	546	490	256	194	333	445	587	306	311	259	91	3818
高2生徒	509	449	234	125	395	446	492	262	355	226	97	3590
中学保護者	490	648	235	77	583	1058	766	278	126	444	16	4721
高1保護者	345	333	103	46	292	495	384	144	113	179	23	2457
高2保護者	349	272	105	40	305	466	363	131	99	171	25	2326
合計	3118	3193	1404	864	2451	3943	3684	1797	1383	1758	361	23956

問7 あなた（あなたのお子さん）が高校に入学してみて、あなたが入学前に考えていた高校のイメージと合っていますか。（高校生・高校保護者のみ）

- ①考えていたとおり
②だいたい考えていたとおり
③少し違っていた
④大きく違っていた

(人)

	①	②	③	④	合計
高1生徒	197	759	305	94	1355
高2生徒	162	680	341	106	1289
高1保護者	193	563	101	18	875
高2保護者	180	529	108	18	835
合計	732	2531	855	236	4354

(人)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計
中学生	837	806	766	113	254	157	570	123	3626
高1生徒	480	446	418	81	128	46	218	99	1916
高2生徒	430	440	375	92	121	57	201	84	1800
中学保護者	516	513	608	133	317	134	454	12	2687
高1保護者	282	310	266	60	136	58	216	10	1338
高2保護者	266	250	258	68	144	71	197	13	1267
合計	2811	2765	2691	547	1100	523	1856	341	12634

問 11 あなたは、専門学科の教育にどのようなことを望みますか。(問3で農業系学科～地域創生科と回答した人のみ)(3つまで選択)

- ①資格取得のための学習や実習等を充実させた教育
- ②職業教育を中心としながら、進学にも対応できる教育
- ③インターシップなど、企業等での体験的な学習を充実させた教育
- ④時代に合った先進的な技術やICT等を積極的に取り入れた教育
- ⑤産業のグローバル化に対応できる語学力やコミュニケーション能力を育成する教育
- ⑥在籍している学科の学習に加え、他の専門学科の学習内容も学べる教育
- ⑦社会人として必要なマナーや礼儀、責任感を身に付けることができる教育
- ⑧特にない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計
中学生	609	364	156	196	121	154	370	88	2058
高1生徒	360	211	115	97	73	80	217	43	1196
高2生徒	358	155	170	94	60	69	203	56	1165
中学保護者	384	202	127	123	90	67	286	9	1288
高1保護者	220	97	89	67	57	42	174	6	752
高2保護者	204	100	100	69	57	38	146	6	720
合計	2135	1129	757	646	458	450	1396	208	7179

(人)

問 12 あなたは、総合学科の教育にどのようなことを望みますか。(問3で総合学科と回答した人のみ)(3つまで選択)

- ①進学や就職など幅広い進路希望に対応した教育
- ②大学等への進学に重点を置いた学習を充実させた教育
- ③専門的な知識や技術の習得に重点を置いた教育
- ④インターンシップなど、企業等での体験的な学習を充実させた教育
- ⑤グローバル人材として必要な語学力やコミュニケーション能力を育成する教育
- ⑥専門科目に関する施設・設備が充実した環境での教育
- ⑦情報化社会の進展に対応して、ICTを積極的に活用した教育
- ⑧進路希望などに応じて、適切に科目選択できるようガイダンス機能を充実させた教育
- ⑨社会人としての必要なマナーや礼儀、責任感を身に付けることができる教育
- ⑩特にない

(人)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
中学生	93	29	53	7	8	35	8	39	43	10	272
高1生徒	67	22	38	18	14	31	6	31	38	14	227
高2生徒	64	21	27	25	11	25	8	20	28	14	201
中学保護者	47	4	25	12	13	9	3	25	25	0	138
高1保護者	54	7	26	20	14	13	7	21	30	3	162
高2保護者	51	7	24	14	8	9	3	22	34	2	138
合計	376	90	193	96	68	122	35	158	198	43	1138

問 13 あなたは、(子どもたちが) 高校生として見に付けることが重要な資質・能力は何だと思いますか。(3つまで選択)

- ①基礎的・基本的な学力
- ②進学に対応できる学力
- ③自ら考え、判断し、よりよく問題を解決できる力
- ④何事にも果敢に挑戦するチャレンジ精神や創造性
- ⑤他人を思いやり生命を大切にす豊かな心
- ⑥自分が希望する職業に必要な知識や技能
- ⑦地域に対する知識や郷土を愛する心
- ⑧社会のリーダーとなれる資質や能力
- ⑨情報化、国際化等の社会の変化に対応できる資質や能力
- ⑩たくましく生きるための健康や体力
- ⑪特にない

(人)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	合計
中学生	1382	831	1076	695	758	916	87	392	427	333	73	6897
高1生徒	764	492	699	375	430	368	58	204	209	224	34	3823
高2生徒	755	423	667	347	440	328	41	194	192	239	35	3626
中学保護者	652	381	1156	631	668	438	43	113	322	290	6	4694
高1保護者	358	211	645	328	382	237	23	69	173	167	3	2593
高2保護者	376	193	622	299	363	195	30	50	158	162	2	2448
合計	4287	2531	4865	2675	3041	2482	282	1022	1481	1415	153	24081

問 14 あなたは、今後、地域と高校の関わり方について、どのようなことを望みますか。(3つまで選択)

- ①ボランティア活動を行う機会をもっと増やす
- ②地元の企業などで行う実習を増やす
- ③郷土芸能や地域の文化に接する機会を増やす
- ④地域の防災訓練に参加する機会を増やす
- ⑤地域社会で優れた技術・技能をもった人を講師に招いた授業を増やす
- ⑥公開講座など、教員の専門的な知識・技能を地域へ提供する
- ⑦地域住民が学校経営に参画できるようにする
- ⑧学校施設の一部を開放して、地域のさまざまな活動に活用する
- ⑨災害時の拠点としての役割を担う
- ⑩特にない

(注)の付いているものは、保護者用アンケートのみにある項目

(人)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
中学生	1338	922	689	361	817	—	—	977	475	439	6018
高1生徒	699	511	350	187	367	—	—	464	263	308	3149
高2生徒	639	529	318	161	382	—	—	432	234	285	2980
中学保護者	684	843	369	156	841	356	104	347	240	119	4059
高1保護者	397	454	178	113	424	163	40	152	137	85	2143
高2保護者	379	399	178	87	445	164	40	138	125	68	2023
合計	4136	3658	2082	1065	3276	683	184	2510	1474	1304	20372

問15 あなたは、今後の県立高校の再編整備にあたり、どのようなことを望みますか。

- ①授業や部活動等を活性化するため、望ましい学校規模を確保した学校を設置する
- ②生徒どうしや生徒と教員が密接な関係を築くことができるよう、小さい規模の学校も設置する
- ③教育内容の特色、生徒や地域の状況に応じた適切な規模の学校を設置する
- ④特にない
- ⑤その他

(人)

	①	②	③	④	⑤	合計
中学生	1124	284	617	349	10	2384
高1生徒	528	168	352	268	15	1331
高2生徒	542	167	327	222	10	1268
中学保護者	557	190	724	87	28	1586
高1保護者	283	94	399	77	19	872
高2保護者	263	74	421	55	11	824
合計	3297	977	2840	1058	93	8265

※ 平成26年7月 高校教育課調べ

調査対象：中学校第3学年 生徒 (2,449人)

保護者 (1,608人)

公立全日制高等学校第1学年

生徒 (1,360人)

保護者 (908人)

公立全日制高等学校第2学年

生徒 (1,291人)

保護者 (900人)

第2期県立高校将来構想（素案）に対するパブリック・コメントの概要

1 パブリック・コメントの実施状況

(1) 募集期間

平成27年1月7日（水）から平成27年2月6日（金）まで

(2) 公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開センター、各地方県民相談室、山口県税事務所防府分室及び各県立高等学校で閲覧できるようにしました。

(3) 意見提出方法等

郵送、FAX、電子メールにより意見を募集しました。

2 意見の件数

95名、171件

(内訳)

	項 目	件数
将来構想	第1章 第2期県立高校将来構想の策定について	3
	1 策定の趣旨	(3)
	2 構想の期間	(0)
	第2章 高校教育を巡る現状と課題について	2
	1 県立高校を取り巻く状況の変化	(0)
	2 県立高校の現状と課題	(2)
	第3章 今後の県立高校の在り方について	14
	1 めざすべき県立高校像	(5)
	2 教育活動の充実	(3)
	3 教育環境の充実	(6)
	第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について	38
	1 特色ある学校づくり	(15)
	2 学校・学科の再編整備	(23)
	第5章 将来構想の推進について	1
1 地域社会との協働	(1)	
2 実施計画の策定	(0)	
	小 計	58
その他	今後の進め方	4
	協議会の運営等	4
	個別の学校	80
	その他	25
	小 計	113
	合 計	171

()は内数

3 提出された意見及びこれに対する考え方

次ページに掲載

第2期県立高校将来構想の策定に係るパブリック・コメントの概要

□ 第2期県立高校将来構想（素案）の内容に係る意見（58件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
第1章 第2期県立高校将来構想の策定について（3件）	
1 策定の趣旨	
<p>○ 小学校についても、国が統合の方針を出しているので、高校についても将来構想を作って、今後の山口県の高校の方針を決めるのはとても重要だと思う。</p>	<p>○ 中長期的な視点に立って本県高校教育の質の確保・向上を図るため、今後の本県高校改革の基本的な考え方や施策展開の方向性を示す「第2期県立高校将来構想」を策定することは重要であると考えており、その趣旨を、1ページの「策定の趣旨」の項で記述しています。</p>
<p>○ 今後も大きく変化していくであろう国際社会に適応し、その一員として生きていくための知識や教養、技能などを、子どもたちにしっかりと身につけてほしいので、この将来構想に基づき、引き続き知恵を絞りながら高校の改革を進めてもらいたい。</p>	<p>○ グローバル化や高度情報化など、社会が急速に変化する中、自らの将来や社会を力強く生き抜く生徒を育てていくため、将来構想に基づき、更なる高校改革の推進に取り組みます。</p>
<p>○ 私立中学・高校、国立高専等との協働を視野に入れた構想（案）を策定し、県、国の財政改善、県立高校教員の年齢バランスの取れた体制づくりを図ることが必要である。</p>	<p>○ 県教育委員会では、国の高校改革の動向や本県高校教育の課題を踏まえ、本県高校教育の質の確保・向上が図られるよう、更なる高校改革の推進に取り組むことが必要であると考えています。 また、県立高校と私立高校等が、それぞれの特性を踏まえ、連携しながら公教育の充実に取り組む中で、より質の高い高校教育の推進に努めます。</p>
第2章 高校教育をめぐる現状と課題について（2件）	
2 県立高校の現状と課題	
<p>○ 方針を決めるときには、子どもたちが、どんな高校に行きたいと思っているのか、高校でどんな勉強をしたいと考えているのかなどをよく調査して検討することが必要だと思う。</p>	<p>○ 県内の中学生、高校生及び保護者の考えや意見を把握するための「高校教育に関するアンケート調査」（6ページ、24ページ、巻末資料49ページ）や、中学生を対象とした「進路希望調査」（巻末資料34ページ）を実施し、その結果も踏まえて検討しています。</p>
<p>○ 生徒の多様化に対応するためには、それに対応できる教員の育成や研修システムも抜本的に変えていかなければならない。</p>	<p>○ 14ページの「教職員の資質能力の向上」の項に記述しているように、「教職員人材育成基本方針」に示す「五つの基本方針」に基づき、優秀な人材の養成・確保に努めるとともに、教職員研修等の充実を図り、本県教育を担う人材の育成に努めます。</p>
第3章 今後の県立高校の在り方について（14件）	
1 めざすべき県立高校像	
（1）県立高校像を考える視点	
<p>○ これまでに行われた統廃合について、その成否に対する真摯な検証は行われてきたのだろうか。</p>	<p>○ 御意見を踏まえ、8ページの「現行構想の成果と課題」の項に、再編統合した学校の特色づくりや「高校教育に関するアンケート調査」の結果に基づき、再編整備実施校の成果と課題を追加して記述しました。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 山口県がこれまでおこなった高校統廃合が地域に及ぼした影響について、本庁にとって都合の良い解釈をせず、第三者機関が総括することが必要。	○ この構想については、御指摘の点も含め、外部の有識者等を含めた将来構想検討協議会で検討し、その御意見も踏まえて策定しています。
(2) 基本的コンセプト（学校づくりの方向性）	
○ 社会人として自覚をもって自立し社会に貢献できる人材の育成は、キャリア教育とだけ結びつけるのではなく、地域活動やボランティア等への参加や家庭教育との連携も考えるべき。	○ 御意見を踏まえ、14ページの「地域と連携した学校づくり」の項に、ボランティア活動など、地域に貢献する取組の充実等を追加して記述しました。
○ 学校の統廃合は効率化のため仕方がないが、廃止された学校を学習拠点として残し、地域の学習する場として活用する等、新しい提案をするくらい積極的な展開をしていかなければ「地域と共に」という言葉には違和感しか残らない。	○ 地域連携については、コミュニティ・スクールの高校への導入を検討するとともに、学校施設の開放や開放講座の開設など高校がもつ人的・物的な教育機能の地域社会への還元に努めます。 また、御意見の趣旨については、今後、将来構想を推進する実施計画の策定にあたり、具体的な検討を進めます。
2 教育活動の充実	
(2) 豊かな心を育む教育の充実	
○ 社会奉仕活動や就業体験等の活動の導入は必要であるが、生徒自身が意欲と主体性をもち取り組めることが重要である。豊かな心を育てるためには、かなり複雑な取り組みが必要であり、ここに書かれてある手立ては表面的すぎるのではないか。	○ 11ページの「豊かな心を育む教育の充実」の項に記述しているように、体験活動の積極的導入や、読書活動の推進等の取組を進め、自立する心、他者を思いやる心、郷土を愛する心等の育成に努めることとしていますが、具体的な方法等については、毎年作成する「推進の手引き」等で、今後、示していきたいと考えています。
(3) 健やかな体を育む教育の充実	
○ 学校の枠を越えた活動や、外部指導者の導入、地域スポーツクラブ等との連携は、運動部員数の減少や、指導者の確保が困難な現状に対して有効な取組になるのではないかと期待できる。山口県全体の取組として進めてほしいと思う。	○ 11ページの「健やかな体を育む教育の充実」の項に記述しているように、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育成することは重要であると考え、運動部活動の活性化を図ります。
(7) ICT活用の推進	
○ ICTの活用は他の教材と同列に扱うべきで、過度に依存することなく、理解を促進する教材やツールの選択肢の一つとして活用していくことが、主体的に子ども達が学習することへ有効に作用すると思う。	○ タブレット型コンピュータ等のICT機器は、わかりやすく理解を深める授業を展開する上でのツールの一つとして活用することが有効であると考えており、その趣旨を、13ページの「ICT活用の推進」の項で記述しています。
3 教育環境の充実	
○ 「教育環境の充実」に関しては、「教職員の資質能力の向上」や「学校運営の活性化」を記載しているが、総じて、教員の意欲と能力に委ねる部分の多さに比べると教育条件整備についての具体的な施策は乏しいと言わざるを得ない。	○ 14ページの「教育環境の充実」の項に記述しているように、地域と連携した学校づくりや安心・安全な学校づくり、再編整備等により、必要となる施設・設備の整備など、質の高い教育環境づくりに努めます。

意見の内容	意見に対する県の考え方
(1) 教職員の資質能力の向上	
<p>○ 現場の生の声をほとんど吸い上げていない「教職員評価」や「教員免許更新」などを改め、教員が主体性を持って資質能力の向上をはかるには、どのような手立てが必要か研究してほしい。</p>	<p>○ 14ページの「教職員の資質能力の向上」の項に記述しているように、「教職員人材育成基本方針」に基づき、やまぐち総合教育支援センターの研修や大学院等への派遣研修など、人材育成のための取組を積極的に推進します。また、教職員評価については、より公正で信頼性の高い評価制度となるよう努めます。</p>
(2) 学校運営の活性化	
<p>○ 教師のヒトとしての個性が学校運営を活性化させている場合も多いのではないかと。管理職は「学校運営の視点」と「教師の視点」という、少し角度が違う視点を行き来し、マネジメントできる必要がある。</p>	<p>○ 14ページの「学校運営の活性化」の項に記述しているように、学校運営の中心となる管理職の資質能力の向上をめざし、マネジメント力を有する管理職候補者の育成に努めます。</p>
(3) 地域と連携した学校づくり	
<p>○ 学校の統廃合が地域を衰退させ、地域消滅への旗振り役になるなど、あってはならないことである。地域社会における学校の存在意義が語られる今こそ、県政全体を見直す中で学校と地域の将来を考える必要性を強く訴える。</p>	<p>○ 地域と連携し、地域から信頼される学校づくりを一層推進することは重要であると考えており、その趣旨を、14ページの「地域と連携した学校づくり」と26ページの「地域社会との協働」の項で記述しています。</p>
(5) その他	
<p>○ 給付型奨学金制度の創設について、検討すべきではないか。</p>	<p>○ 本県では、平成26年度に新たに、高校生等に対する「奨学のための給付金制度」を創設したところであり、この制度を含め、16ページの「その他」の項に記述しているように、引き続き、奨学金制度の周知・拡充に努めます。</p>
第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について（38件）	
1 特色ある学校づくり	
<p>○ 勉強ができる子、スポーツが得意な子、手先が器用な子、機械いじりが好きな子など、様々な個性を持った子どもたちのよさを、さらに伸ばしてもらえような特色ある学校づくりに期待する。</p>	<p>○ 生徒の興味・関心や目的意識等のニーズの多様化に対応し、選択幅の広い教育の推進に取り組むとともに、中学生が主体的に学校選択をすることができるよう、各高校の個性化・多様化を図る特色づくりを推進することとしており、いただいた御意見は、今後の将来構想の推進の参考とさせていただきます。</p>
<p>○ 今後、県立高校における特色ある学校づくりの具体的検討に当たっては、教育基本法の趣旨を尊重し、私立学校における学校・学科配置、通信制や中高一貫教育の取組状況等を十分勘案するとともに、あわせて国立高専や県立以外の公立高校の学校・学科配置や今後の動向も勘案すべきである。</p>	<p>○ 17ページの「特色ある学校づくり」の項に記述しているように、生徒のニーズや地域の状況の変化等を十分に踏まえながら、学校・学科の適切な設置や適正な定員設定となるよう努めることとしており、いただいた御意見は、今後の将来構想の推進の参考とさせていただきます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>○ 「第2期将来構想」では、「大学等への進学に重点を置く取組」「高度な専門性をもった産業人材を育成する取組」に特化した「拠点的な役割をもつ学校」の配置にも言及し、「特色づくり」が「学校間格差」につながる。</p>	<p>○ 17ページの「特色ある学校づくり」の項に記述しているように、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開など、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備が重要であると考えています。</p> <p>また、平成28年度から実施する全日制普通科の通学区域の全県化も踏まえ、中学生が主体的に学校を選択できるよう、全県的なバランスを考慮しながら、各高校の個性化・多様化を図る特色づくりを一層推進することとしています。</p>
<p>○ 一つの学校が、別の学校と合併することにより、まったく新しい教育をめざすことも必要かもしれないが、一つの学校が永年築き上げてきた良き校風、伝統が失われることの損失のほうが大きいのではないかとも思われる。</p>	<p>○ 17ページの「特色ある学校づくり」の項に記述しているように、各高校の歴史や伝統、地域の特性等を踏まえた特色ある学校づくりに努めます。</p>
<p>○ 「特色ある学校づくり」は学校に市場原理を持ち込み、教育の機会均等の大原則を踏みにじる。</p>	<p>○ 生徒の興味・関心や学ぶ意欲、目的意識等のニーズの多様化に対応し、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備の推進が必要であると考えており、その趣旨を、17ページの「特色ある学校づくり」の項で記述しています。</p>
<p>○ 「探究科」「総合運動部」「通信制の遠隔授業」などの新しいことについては、※の説明だけでは、なぜそれが必要なのか、具体的にどのようなことをするのか、それを実施するためには何が必要なのかなどがわからない。山口県としての考え方を、具体的に明らかにしてほしい。</p>	<p>○ 探究科の設置などについては、今後、将来構想を推進する実施計画の策定にあたり、検討を進め、具体的な内容等をお示しします。</p>
<p>(1) 全日制課程の方向性 【普通科系の学科】</p>	
<p>○ 山口県の進学校の教育を見直す時期がきているのではないだろうか。格差が激しくなると言われているこれからの時代、塾に行かなくても、やる気のある子供たちが、どんな難関大でも行きたいところに行けるような進学校には是非して頂きたいと思う。</p>	<p>○ 17ページの「普通科系の学科」の項に記述しているように、生徒や保護者の大学等への進学ニーズを踏まえ、大学等への進学に重点を置く取組を拠点となって進める高校について、地域バランスを考慮した配置を検討するなど、進路希望の実現につながる確かな学力の育成に努めます。</p>
<p>(1) 全日制課程の方向性 【専門学科】</p>	
<p>○ 今の時代、早くから専門知識を学び、進学するなり就職するなりして、力を身に付けた方がいいような気がする。</p>	<p>○ 18ページの「専門学科」の項に記述しているように、本県産業の次代を担う各専門分野のスペシャリストを育成することは重要であると考えており、いただいた御意見は今後の特色づくりの推進の参考とさせていただきます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
〔商業に関する学科〕	
○ 県全体の教育バランスや地域を活性化する面からも、独立の商業高校が必要である。下関、宇部、岩国とバランスのある配置も必要ではないか。	○ 御意見の趣旨については、今後、将来構想を推進する実施計画の策定にあたり、具体的な検討を進めます。
(2) 定時制・通信制課程の方向性	
○ 社会人の聴講制度については、安易に進めるべきではないと思う。あくまで、高校卒業を目指すことを目的とした学校とするべきで、社会人には、放送大学等の生涯学習のしくみを利用していただくべきではないだろうか。	○ 県民の多様な学習ニーズに対応するため、学校の教育機能を活用した学習機会の提供に努めることが重要であると考えており、その趣旨を、22ページの「定時制・通信制課程の方向性」の項で記述しています。
○ 二部制・三部制定時制課程の設置や通信制の平日スクーリングを拡充する場合、全日制課程と併置すると混乱するのは必定なので、切り離して高校を新設する必要がある。	○ 22ページの「定時制・通信制課程の方向性」の項に記述しているように、新しいタイプの多部制定時制課程の設置を検討することとしていますが、具体的な内容については、今後、実施計画を策定する中で検討していきます。
○ 「多様な学びのニーズに応える学校として役割が増している」現状において、教員の専門性も求められていると思うが、これに対応する方向性はこの文章中から見られない。	○ 14ページの「教職員の資質能力の向上」の項に記述しているように、教職員がそれぞれの資質能力を高めることができるよう、やまぐち総合教育支援センターでの研修や大学院等への派遣研修など、様々な人材育成に関する取組を充実します。
○ 3年修業制は選択肢の一つとして作用させ、定時制の本流はできるかぎり「教科教育の詰め込み」にならないように配慮しなければならない。単位制については、安易に拡充すると、卒業に時間のかかる生徒が出てくることや、授業以外の学校生活に関心をもたない生徒が頻出する可能性が高い。	○ 定時制・通信制課程は、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっており、3年修業制や単位制の拡充など、多様な学びのニーズに応える教育システムの構築が重要であると考えており、その趣旨を、22ページの「定時制・通信制課程の方向性」の項で記述しています。
○ 再編統合は活力を生むのか？活力を持たせるのは、子どもたちが在学中に生き生きと活動できる場を増やしてやることや、生徒のよき理解者となる、やる気のある教員を多く配置することではないかと思う。	○ より質の高い教育が提供できる教育環境等の整備・充実を図るため、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備を進め、活力ある学校づくりに取り組みます。 また、不登校経験者等の生徒の多様な学習ニーズに対応するため、新しいタイプの多部制定時制課程の設置や夜間定時制課程の再編統合の検討などは重要であると考えており、その趣旨を、22ページの「定時制・通信制課程の方向性」の項で記述しています。
(3) 中高一貫教育の推進	
○ 公立中高一貫教育を多額の税金を使い安易に拡充することは、私立の中高一貫校を潰すことになり、山口県全体の教育振興にとって大きなマイナスである。	○ 24ページの「再編整備の進め方」の項に記述しているように、再編整備については私立高校の配置状況などを総合的に勘案しながら取り組むこととしていますが、御意見を踏まえ、県立高校と私立高校が、それぞれの特性を踏まえた教育を展開することが重要と考え、22ページの「中高一貫教育の推進」の項の記述を修正しました。

意見の内容	意見に対する県の考え方
2 学校・学科の再編整備	
(1) 再編整備の必要性	
<p>○ 規模の大きな学校を増やして、勉強でも部活動でも、全国的に有名になれる学校が山口県にできることを期待している。</p>	<p>○ 23ページの「再編整備の必要性」の項に記述しているように、学校の小規模化が進む中、活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るため、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備に努めます。</p>
<p>○ これから県立高校に入学してくる生徒のことを第一に考え、子どもたちがある程度の集団の中で切磋琢磨できる環境を整えるため、山口県らしい教育をめざして、県立高校の再編整備を進めてもらいたい。</p>	<p>○ 23ページの「再編整備の必要性」の項に記述しているように、学校の小規模化が見込まれる中、再編整備にあたっては、一定の学校規模の確保をめざし、高校教育の質の確保・向上を図ります。</p>
<p>○ 第2期県立高校将来構想では、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模の確保が必要とあるが、規模重視の再編ではなく、各学校の特色や伝統、校風、部活動の実績、地域とのつながりなどを十分精査したうえで、よりよい高校再編となるよう強く要望する。</p>	<p>○ 23ページの「再編整備の必要性」の項に記述しているように、今後とも、中学校卒業生数の継続的な減少が見込まれる中、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を進める必要があると考えています。</p> <p>また、17ページの「特色ある学校づくり」の項に記述しているように、学校・学科の再編整備に取り組む中で、各学校の歴史や伝統、地域の特性等を踏まえた特色ある学校づくりに努めます。</p>
<p>○ 統廃合することにより、高い教育力を持っている学校の教育力が薄れたり、廃れてしまうことは、山口県の教育にとって、大変な痛手である。</p> <p>3学級だからといって、全て機械的に再編整備することが良いことだろうか。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、何よりもまず、主役である生徒に質の高い教育を提供するという視点に立つことが重要と考えており、24ページの「再編整備の進め方」の項に記述しているように、再編整備の実施にあたっては、高校教育の質の確保を図る観点や地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響等を、総合的に勘案しながら検討することとしています。</p>
<p>○ 規模の小さな学校であっても、学校の特性を活かした特色ある教育活動を展開するなど工夫した学校運営を行うことにより活力があり教育の質の確保・向上・実績を上げていけると考える。</p>	<p>また、25ページの「配慮事項」の項に記述しているように、再編整備の対象校であっても、県全体の教育効果を高めることが特に期待される学校においては、当面は学校を維持することも検討することとしています。</p>
<p>○ 少人数ならではの、一人ひとりに寄り添った教育が生徒を成長させることは、小規模校や分校あるいは定時制などで実証済みである。小規模校が果たしてきた教育的役割の評価をすることもなく「再編整備の必要性」を説いている。</p>	
<p>○ 中学生により多くの選択肢をもってもらえるためにも高校の統合については反対である。</p>	<p>○ 選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開など、高校教育の質の確保・向上を図るため、再編整備を進める必要があると考えており、その趣旨を、23ページの「再編整備の必要性」の項で記述しています。</p>
(2) 望ましい学校規模	
<p>○ 高校生ともなると、社会に出る一歩手前の時期となることもあるし、同級生、先輩、後輩、先生方等、様々な出会いの中で、刺激を受けながら人間としての在り方を考えていけるよう、この構想の望ましい学校規模の確保をめざしてもらいたいと思う。</p>	<p>○ 23ページの「再編整備の必要性」の項に記述しているように、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開など、高校教育の質の確保・向上を図るため、望ましい学校規模の確保をめざして再編整備を進めます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>○ 「望ましい学校規模」には法的根拠はない。なぜ質の高い高校教育を提供する上で3クラスが望ましくないか、その理由がわからない。いずれ中学卒業生徒数が今後減ってくることは理解する。しかしそれは地域によって差があると思う。</p>	<p>○ 23ページの「望ましい学校規模」の項に記述しているように、学校規模別の開設科目数、配置教員数、部活動数とともに、アンケート結果（巻末資料54ページ）等も踏まえて検討した結果、これまでと同様に1学年4～8学級を望ましい学校規模としています。 また、望ましい学校規模を確保することにより、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開などの教育的効果が期待できます。</p>
(3) 再編整備の進め方	
<p>○ いくつかの項目の一つとして「私立高校の配置状況などを総合的に勘案する」としているが、その概要では私立高校との関係は記載されていない。また、全国の自治体の中でも設置数が多い国立高専3校のことには全く言及されていない。</p>	<p>○ 24ページの「再編整備の進め方」の項に記述しているように、再編整備については、私立高校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情等も踏まえて取り組むこととしています。 また、県立高校と私立高校が、それぞれの特性を踏まえた教育に取り組む中で、より質の高い高校教育の推進に努めます。</p>
<p>○ どこに住んでも無理なく通える範囲に高校があり、どの高校においても高度に普通かつ共通の教育（「普通教育」）と「専門教育」が保障される教育制度の確立と条件整備は不可欠である。</p>	<p>○ 24ページの「再編整備の進め方」の項に記述しているように、再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、通学実態などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や分散型都市構造にある本県の特性も踏まえて取り組むこととしています。</p>
<p>○ 整理淘汰される高校の多くは郡部の小規模校や分校等であるが、県教委はこれらの学校の果たしてきた教育的貢献について、どのように評価しているのだろうか。</p>	<p>○ 25ページの「配慮事項」の項に記述しているように、再編整備の対象校であっても、県全体の教育効果を高めることが特に期待される学校においては、当面は学校を維持することも検討することとしています。</p>
<p>○ 県立高校とはその在り方は多様であり、それらが相互に補い合って、山口県の高校教育を成り立たせているわけであるから、原理主義的に単純化された発想で、大なたを振るってはならない。</p>	<p>○ 生徒の多様化に対応し、学校の個性化・多様化を図る教育活動の充実に努めます。 また、25ページの「配慮事項」の項に記述しているように、再編整備の対象校であっても、県全体の教育効果を高めることが特に期待される学校においては、当面は学校を維持することも検討することとしています。</p>
第5章 将来構想の推進について（1件）	
1 地域社会との協働	
<p>○ 本当に良い学校を創ろうとすれば、在校生がきちんとすることはもちろんだが、卒業生や関係保護者の支援やサポートを得られることも必要であると思う。再編統合をするということは、そのような愛着や支援が薄くなってしまう可能性が大きいということではないだろうか。</p>	<p>○ 26ページの「地域社会との協働」の項に記述しているように、地域の人材や教育施設など、地域の教育力を積極的に活用しながら、学校・家庭・地域が一体となって、教育活動の質の向上に取り組めます。</p>

□ その他の意見（113件）

これらの他に、再編整備の今後の進め方等に関する御意見もありましたので、今後の将来構想の推進等の参考にさせていただきます。

1 今後の進め方に係る意見（4件）

- すべての学校の当事者（生徒、PTA、地元自治体、小・中学校の児童生徒・父母、地域住民、同窓会、教職員など）の意見や要求を直接聴く民主的な論議の場を保障すべきである。
- 統廃合を行うにしても、それは十分な検討を行い、メリットもデメリットも十分に吟味し、地域住民の広範な同意が得られた上のものでなければならない。
- 「地域づくり」の視点からも科学的な検証をすることも必要。
- 10年、20年先を見据えて「将来構想」を考えるのなら、これまでの総括を丁寧におこない、今後に関しても、フィールドワークや実践研究をさまざまな視点で行い、短期間での修正を繰り返していくことが必要である。

2 協議会の運営等に関する意見（4件）

- 地域住民や教職員など、学校に関わる人々による協議がなされていない。
- 現行の教育委員会制度、基本計画に基づく検討体制は、外部有識者が数名協議会に入っているが、公立学校の教員が事務局として原案を作成して取りまとめるため、職務範囲の制限もあり、全県的に国・公・私立の学校を視野に入れた幅広い検討や、財政的観点からの検討を新しい発想でおこなうことはされていない。
- 公の性質を持つ学校の統廃合や制度改変を、県教育行政と一部の「協議会」委員の意見をもとに一方向的に進めることは断じて許されない。
- これまでの総括や検証も不十分なまま「第2期県立高校将来構想検討協議会」が、短期間の協議で「今後10年間の高校改革の指針」を示している。

3 個別の学校に対する意見（80件）

- 伝統ある岩国商業高校を是非存続していただきたい。野球部や他の運動部・文化部の活動・活躍は、素晴らしい。販売実習「岩商プラザ」は楽しみにしておられる市民の方も多し。地域の評判も良く、今まで先輩から受け継いできた、礼儀正しさと挨拶、身だしなみの良さといった伝統や校風を大切にして存続して欲しい。
- 『岩国商業』に周辺他校の融合・編入可能な学科が1・2クラス加わる事の方が、何かにつけて、現実的かつ堅実ではないかと私は考える。

4 その他の意見（25件）

- 自分の母校を守りたいということだけを考えて反対するのは簡単だが、学校をそのまま放置することによって子どもたちが被ることになると予測される弊害に対して、どなたが責任を取ることができるのだろうか。
- 教育行政は、小規模校の統廃合を云々する前に、先進国の常識に近づけるべく少人数学級の実施などの教育条件整備に全力を傾注すべきである。
- 単位制高校について、単位修得等のルールは、中学生やその保護者などからは分かりにくいので、山口県としての統一した基準を定めて頂きたいと思う。
- 学力、専門性、校風、部活など様々な要素を真剣に考えて、自分にあった学校を探し、その学校に合格することを目標に中学生生活をおくるべきと考える。
- 万が一、市内の高校が統合されるとしたら、岩国市民や岩国全体が落胆し、市の経済も落ち込むと思う。民間の企業の経営統合や廃業が多い中、少子化とはいえ、公的な施設の岩国の高等学校が1つなくなる事は絶対にあってはいけないと思う。
岩国市の県立高等学校は再編整備のリストには入れないでほしい。
これ以上、景気のマイナス要素を岩国に持ち込まないでほしい。

- 今全国的に総合高校・総合科目が流行っているようだが、本当の意味での総合科目とは、商業高校のカリキュラムではないだろうか。

- あと二月でスタートする新制度下で、公立高校関係者に加え、知事部局の私学担当部署、財政担当部署の関係者、私立中学・高校関係者、国立高専関係者も加わり、総合的な見地から山口県の高次教育について協議し、国・公・私立のそれぞれの中等教育機関の発展をはかることで山口県の教育振興につながる構想（案）を策定することが必要である。

- 教育費は将来への投資であり、教育への効果的な投資は大変重要である。しかし、国全体で1,000兆円超、山口県単県でも1兆3000億円を超える負債を抱え、将来への負担が年々増加している現状についても考慮することは必要である。

- 全ての教育課題に公立校で対応するという発想から脱却し、柔軟な発想で問題対応するという視点が必要である。

- 教育再生実行会議も「学校規模の適正化」による「学校統廃合」を提言し、その根幹が財政効率至上主義であることは明らかである。山口県教委の「第2期将来構想」も、その方針に従ったものに他ならない。

- 全日制普通科の通学区域の全県化には、教育の条理に反する競争と高校の序列化を激化させるものとして引き続き反対する。学区撤廃のねらいは、「基本的コンセプト」（学校づくりの方向性）に示された「地域に愛され、地域とともにある学校」や「地域の子どもは地域で育てる」の基本方針とも矛盾している。

- 協議会も経ずに、第1期構想にはあった『給付型奨学金』の文言が、第2期案では削除されている。

- 地域から子育て世代を流出させてしまうような、拙速な学校統廃合を進めてはならない。今必要なのは、教職員をはじめ広く県民を巻き込んだ慎重な議論である。

- 1期であれ2期であれ、県教委の構想から決定的に欠落しているものは、学校のことを一番わかっているのは、現にそこにいる教職員であるという最も根本的な視点である。

- 人口減少が社会問題となっている現在であるので、今こそ地域のニーズに応えた教育に力を注ぎこみ、人口流出に歯止めをかける教育施策が必要である。

- この「構想」には、学校の存続を地域住民による地域の「将来構想」の中で検討するという視点が皆無である。このままの無策状態が続けば、町が減り市が減り、他県への加速度的な人口流出がやがて県全体の消滅につながって行くに違いない。

- S S W等の専門家の配置は今後も充実してほしいが、教育者が教育に専念できる環境づくりをするのも、外部人材の役目でもある。

- 良い人材を高校で育てても、進学や就職において、都市部への流出は防げない。この矛盾をいかに解決するのか。これは教育だけで解決できる問題ではなく、そのことに対して実効性のある努力をする必要がある。

- 「素案」からは、教育現場の実態や雰囲気や正確につかめていない部分があるように感じられる。

